

参 考 資 料

感染症発生動向調査事業の月別主要トピックス

令和5年2月分《麻しん・風しん～予防には予防接種が効果的、早めに接種して感染を防ぎましょう～》

★麻しん（はしか）について

麻しんは、発しんや発熱を主な症状とする病気です。通常の風邪とは異なり、肺炎や脳炎などを起こして重症化する確率が高く、昔は多くの方が亡くなっていました。現在でも、麻しんにかかる、500～1000人に1人が亡くなるといわれています。多くの人が予防接種を受けているため、麻しんにかかる人は少なくなっていますが、感染力はインフルエンザよりもずっと強く、免疫が無い状態で患者と接触すると、ほとんどの人が感染してしまいます。大学入学や海外への留学などの際に、麻しんに対する免疫をもっていることの証明書が必要となることもあります。

★風しん（三日ばしか）について

風しんは、発しん、リンパ節腫脹、発熱を主な症状とする病気です。大人になってからかかると重症化しやすく、また、妊娠中の方が妊娠早期にかかると、子どもに白内障、心疾患、難聴などの先天異常が起こる可能性が高くなります（先天性風しん症候群）。近年、免疫を持っていない成人男性の間に風しんが流行することがあり、妊婦へ感染させてしまうことが問題となっています。

（１）麻しん・風しん（MR第1期・第2期）定期予防接種について

区 分	対 象 年 齢
第1期	1歳以上2歳未満（2歳の誕生日の前日まで）
第2期	小学校就学前年度（令和5年4月に小学校入学予定の方） ※令和4年度は平成28年4月2日から平成29年4月1日生まれの方 ＊接種期間：令和5年3月31日まで＊

（２）風しん（第5期）抗体検査及び予防接種について

第5期	抗 体 検 査	昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性（1回のみ）
	予 防 接 種	抗体検査の結果、風しんに対する抗体値が不十分だと判断された、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性（1回のみ）

※いずれの定期予防接種（第5期の抗体検査含む）も無料で接種することができます。

（参考）過去4年間の麻しん・風しん報告数

年 次	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年※	
	麻しん	風しん	麻しん	風しん	麻しん	風しん	麻しん	風しん
本 市	10	27	0	7	0	0	0	0
全 国	744	2,298	10	101	6	12	6	15

※令和4年第1週～52週診断分の暫定値

令和5年5月分《ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎） ～報告数増加～》

ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）は、コクサッキーウイルスA群を主な原因とする感染症です。潜伏期間は3～5日であり、乳幼児に多く、例年、夏から初秋にかけて流行するため注意が必要です。

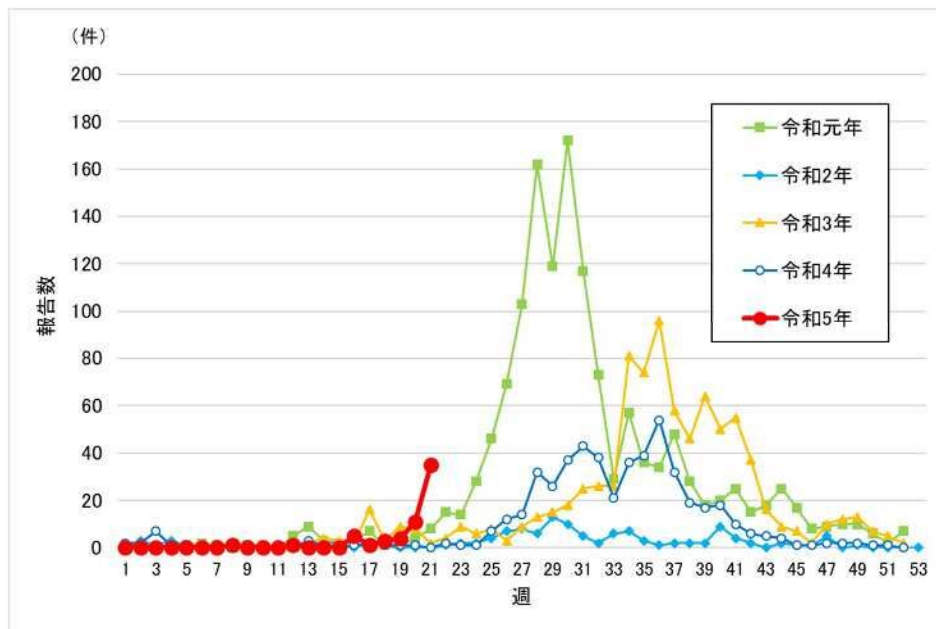
感染経路は、くしゃみ等の飛沫による感染のほか、汚染された手や飲食物を介して感染することもあります。

主な症状は、口腔内の水疱、発熱及び咽頭痛です。水疱が破れると痛みが生じ、食事や水分が十分にとれず、脱水症になることがあるため、食事がとりにくい場合は、熱いものや固いものは避け、水分補給を心がけましょう。

令和5年第18週から第21週までの市内報告数は53件で、過去5年間の中で最も多い報告数となっています。引き続き、今後の発生動向を注視する必要があります。

治療は対症療法が中心となるため、予防が重要です。症状がおさまった後も、2～4週間程度は便などにウイルスが排泄されるため、患者との接触を避け、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前などの手洗いを徹底しましょう。

ヘルパンギーナ報告数の推移（名古屋市）



《RS ウイルス感染症 ～報告数増加～》

RS ウイルス感染症は、RS ウイルスによる呼吸器の感染症です。感染後、典型的には4～5日間の潜伏期間を経て発症し、発熱、鼻汁、咳等の症状が1週間程度続きます。特に生後数週から数か月の期間は重症化リスクの高い感染症です。1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%が初感染するとされています。RS ウイルスは生涯にわたって感染を繰り返し、幼児期や成人の再感染はよくみられます。成人では通常は感冒様症状のみですが、RS ウイルスに感染した小児を看護する保護者等では、一度に大量のウイルスに曝露して感染することによって、症状が重くなる場合があります。

令和5年第1週～第21週の市内報告数は、3歳以下の割合が約87%となっています。5月期の市内報告数は212件で前月期の約2.4倍に増加しており、注意が必要です。

感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染や、ウイルスがついた手指や物品（ドアノブ等）を触ることによる接触感染です。

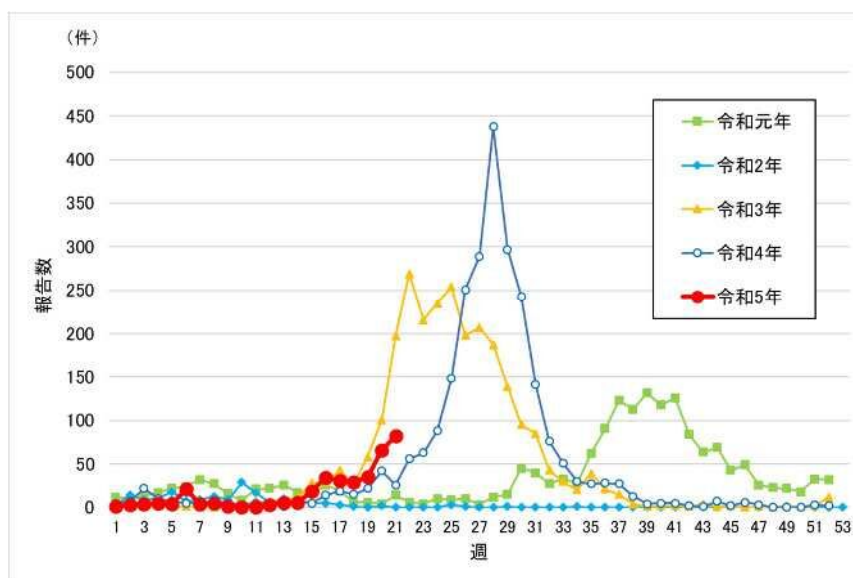
RS ウイルス感染症には特効薬はなく、対症療法を行います。咳等の呼吸器症状のある場合は、マスクを着用して周囲への感染を防ぎましょう。おもちゃや手すり等はこまめにアルコール等で消毒し、流水と石けんによる手洗いをを行い、感染を防ぎましょう。

なお、新生児、乳児及び幼児に対する予防方法として、モノクローナル抗体製剤であるパリビズマブの投与があります。RS ウイルス感染症の流行初期に投与し始めて流行期も引き続き1か月毎に筋肉注射することにより、重篤な下気道炎症症状の発症の抑制が期待できます。投与対象患者は以下の方です。

- ・ 在胎期間 28 週以下の早産で、12 カ月齢以下の新生児及び乳児
- ・ 在胎期間 29～35 週の早産で、6 カ月齢以下の新生児及び乳児
- ・ 過去 6 カ月以内に気管支肺異形成症の治療を受けた 24 カ月齢以下の新生児、乳児及び幼児
- ・ 24 カ月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患の新生児、乳児及び幼児
- ・ 24 カ月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患の新生児、乳児及び幼児
- ・ 24 カ月齢以下の免疫不全を伴う新生児、乳児及び幼児*
- ・ 24 カ月齢以下のダウン症候群の新生児、乳児及び幼児*

*本剤の添付文書では、投与に際しては学会等から提唱されているガイドライン等を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮すること、とされています。

RS ウイルス感染症報告数の推移（名古屋市）



令和5年9月分《インフルエンザ ～予防と早めの治療を心がけましょう～》

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染です。感染すると、1～3日間の潜伏期間を経て、38℃以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛、筋肉痛などの症状が出現します。いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴です。

高齢者や幼児、妊婦、持病のある方は重症化する場合があるので特に注意が必要です。該当する方はかかりつけ医と相談のうえ、インフルエンザの予防接種をご検討ください。

今シーズンは例年の同時期よりも患者報告数が多く、名古屋市内でも患者報告数の増加が見られますので、予防と早めの治療を心がけましょう。また、感染を広げないためにも、咳エチケットを守りましょう。

名古屋市内におけるインフルエンザの流行状況や学級閉鎖の実施状況等の情報は、本市ウェブサイトに掲載していますので、ご参照ください。

(URL : [https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-9-0-0-0-0.html](https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-9-0-0-0-0-0.html))

○予防するには

- ・人ごみ等への不要不急な外出を控え、帰宅時には手洗いをしましょう。
- ・バランスの良い食事、適度な運動、十分な睡眠をとり、体調を整えましょう。

○早めの治療

- ・かかったかなと思ったら、かかりつけの医療機関に相談しましょう。
- ・安静にして、十分な休養をとり、水分を補給しましょう。

○感染を広げないために

- ・感染を広げないためにも、『咳エチケット』を守りましょう。

～『咳エチケット』とは～

◎咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけましょう。

◎鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。

◎症状のある人はマスクを正しく着用し、周囲への感染防止に努めましょう。

《参考》

○インフルエンザの出席停止期間の基準（学校保健安全法）

- ・発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児は3日）を経過するまで。
- ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない。

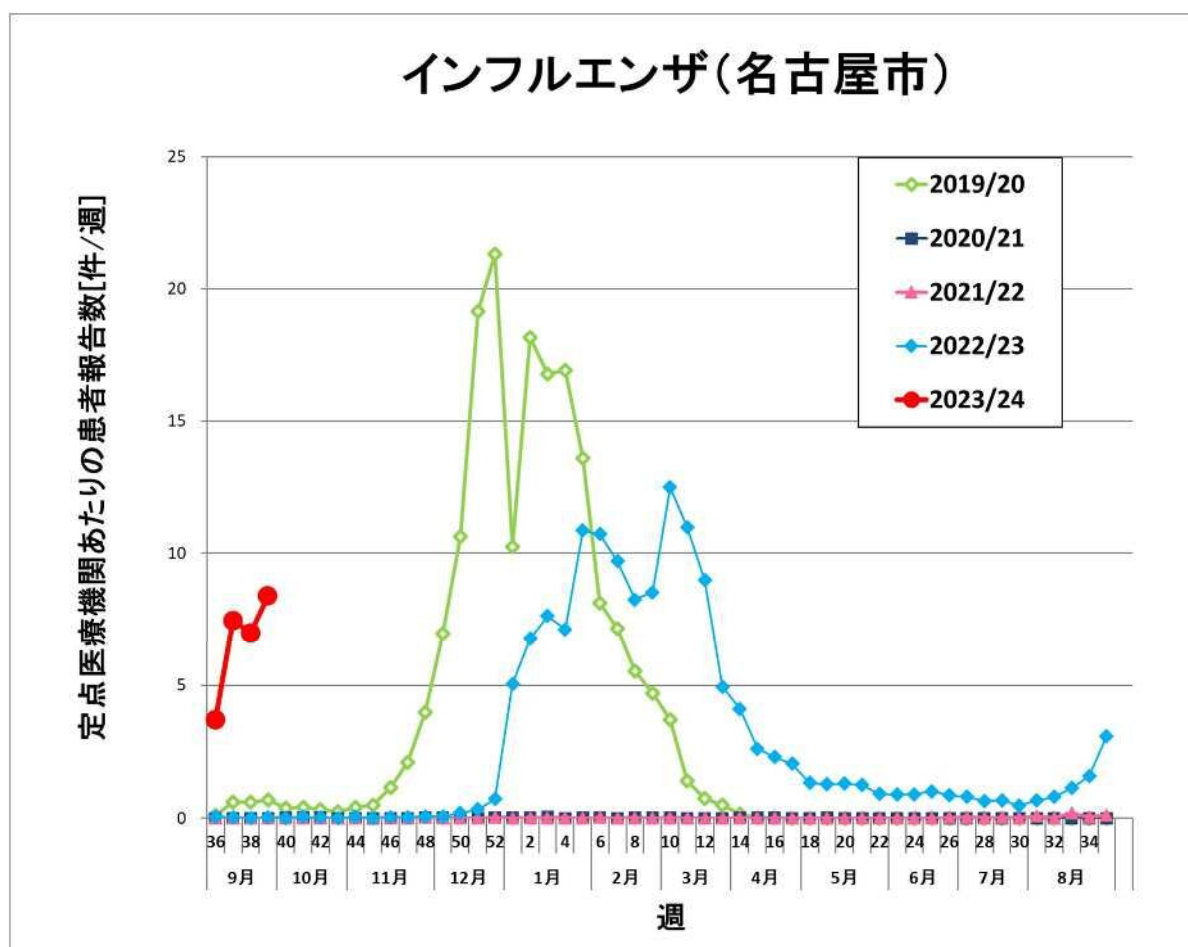
(1) 定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数（過去3週分）

	名古屋市	愛知県 (本市を含む)	全国 (愛知県を含む)
定点医療機関数	70	195	約 5,000
2023 年第 37 週 (9/11-9/17)	7.43	9.55	7.03
2023 年第 38 週 (9/18-9/24)	6.96	8.54	7.09
2023 年第 39 週 (9/25-10/1)	8.37	9.51	9.57

※ 定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数が「1」を超えると**流行入り**、「10」を超えると**注意報**、「30」を超えると**警報**の基準となっています。

※ **注意報**または**警報**の基準を超えると愛知県が「インフルエンザ注意報」または「インフルエンザ警報」を発令します。

(2) 名古屋市の定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数（直近5年分）



《咽頭結膜熱（プール熱）～例年同時期よりも報告数が増加しています～》

咽頭結膜熱は、アデノウイルスにより引き起こされる感染症です。潜伏期間は5～7日で、幼児から学童に多く流行します。水遊びやプールを介して流行することが多いため「プール熱」とも呼ばれています。しかし、飛沫感染や接触感染でも感染するので、プールに入らない子どもでも注意が必要です。例年、夏季にかけて感染のピークとなる傾向がありますが、今年は例年同時期よりも患者報告数が増加しています。

主な症状は、発熱、のどの痛み、扁桃炎、結膜炎、鼻炎です。通常の風邪に比べて、発熱期間が長く、4～5日間高熱（39～40度）が続くことがあります。

感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染や、感染した人が使用したタオル（目やに・涙液を含むため）を共用することによる接触感染で、プールを介した場合は、汚染した水により結膜から感染することがあります。

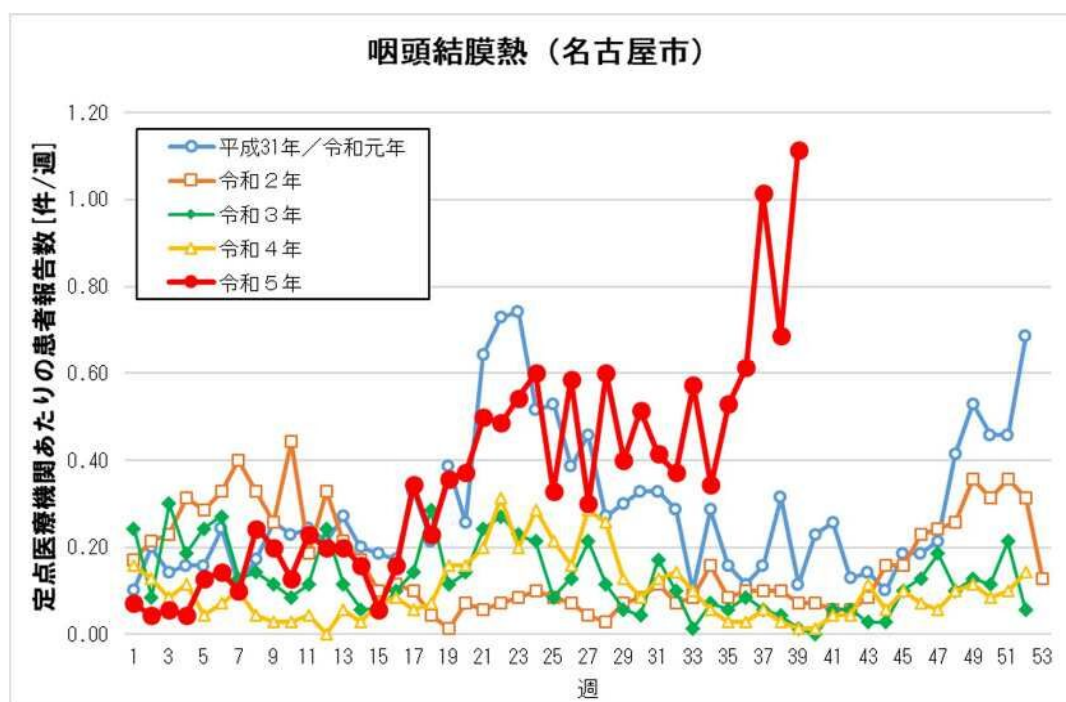
予防法としては、流水とせっけんによる手洗い・うがいを行い、感染した人との密接な接触は避けましょう（タオルなどは別に使いましょう）。また、プールからあがったときは、シャワーをよく浴びましょう。

アデノウイルスは他にも、流行性角結膜炎などを引き起こす場合があります。流行性角結膜炎は、主に目の充血・痛み、目やにがよく出るなど、結膜炎症状を起こすことが特徴です。感染経路や予防法は咽頭結膜熱と同様です。

○咽頭結膜熱の出席停止期間の基準（学校保健安全法）

発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまで。

ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない。



令和5年10月分《ダニ媒介感染症 ～山や草むらでの野外活動の際は、マダニに注意しましょう～》

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことです。人が野外作業、農作業やレジャー等で、ダニの生息場所に立ち入ると、ダニに刺されることがあります。ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、刺された人が病気を発症することがあるため注意が必要です。主なダニ媒介感染症は、以下のとおりです。

（１）日本紅斑熱

日本紅斑熱はリケッチアの一種であるリケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) を保有するマダニに刺されることで感染します。潜伏期は2～8日で、症状は頭痛、発熱、倦怠感があります。発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられます。後述するつつが虫病との臨床的な鑑別は困難ですが、発疹が体幹部より四肢末端部に比較的強く出現する（つつが虫病では主に体幹部にみられる）、つつが虫病に比べ、刺し口の中心の痂皮（かさぶた）部分が小さいなどの特徴があります。検査所見としてCRPの上昇、血清酵素（AST、ALT）の上昇、血小板の減少などが挙げられます。感染した場合は、早期にテトラサイクリン系などの抗菌薬を投与することが極めて重要です。

日本紅斑熱の報告件数（件）

	令和3年	令和4年	令和5年 (11月1日までの速報値)
名古屋市	2	0	1
愛知県 (名古屋市を含む)	7	5	8
全国	490	457	452

（２）重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

主に重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS）ウイルスを保有するマダニに刺されることで感染します。感染すると6～14日で発熱や消化器症状（食欲低下、嘔吐、腹痛、下痢など）を生じ、ときに頭痛、筋肉痛、神経症状や出血症状などを伴います。血液所見では、血小板減少、白血球減少、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が認められます。致死率は10～30%程度とされていますが、有効な薬剤やワクチンはなく、治療は対症療法を取ります。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の報告件数（件）

	令和3年	令和4年	令和5年 (11月1日までの速報値)
名古屋市	0	1	0
愛知県 (名古屋市を含む)	1	1	1
全国	110	118	127

(3) つつが虫病

つつが虫病はつつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) を保有するツツガムシ (ダニの一種) に刺されることによって感染します。潜伏期は5～14日で、発症すると全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などが出現します。体温は段階的に上昇し、数日で40℃に達することもあります。刺し口は皮膚の柔らかい隠れた部分に多く、刺し口の所属リンパ節は発熱する前頃から次第に腫脹します。第3～4病日より不定型の発疹が出現しますが、発疹は顔面、体幹に多く四肢にはあまりみられません。テトラサイクリン系の有効な抗菌薬による治療が適切に行われると劇的に症状の改善がみられます。一方で、重症になると肺炎や脳炎症状を起こします。北海道を除く全国で発生がみられます。発生時期は春から初夏及び晩秋から冬ですが、媒介ツツガムシの生息地域によって異なります。

つつが虫病の報告件数 (件)

	令和3年	令和4年	令和5年 (11月1日までの速報値)
名古屋市	1	3	0
愛知県 (名古屋市を含む)	16	17	2
全国	544	492	127

(4) その他のダニ媒介感染症

その他のダニ媒介感染症には、一類感染症のクリミア・コンゴ出血熱や四類感染症の回帰熱、ダニ媒介脳炎、ライム病などがありますが、いずれも名古屋市内での発生事例はありません。

○予防するには

- ・マダニの活動は春から秋にかけて盛んになりますが、寒い時期でも注意しましょう。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン (シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する)、足を完全に覆う靴 (サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが重要です。
- ・服は、明るい色のもの (マダニを目視で確認しやすい) がおすすめです。
- ・屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認して下さい。特に、脇の下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部 (髪の毛の中) などがポイントです。

○マダニに刺された場合

- ・マダニの多くは、ヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間 (数日から、長いものは10日間以上) 吸血しますが、刺されたことに気が付かない場合も多いと言われています。吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関 (皮膚科) で処置 (マダニの除去、洗浄など) をしてもらってください。
- ・マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

HIV／性感染症検査アンケート結果 令和5(2023)年度実施分

<方法>

令和5年度に実施された平日昼間検査（各区保健センター）、平日夜間検査（中村、中保健センター）、土曜日検査及び日曜日検査の各 HIV／性感染症検査（平日夜間検査は HIV 検査のみを実施）において調査票が回収された延べ6,340人を対象として集計を行った。集計は検査時間帯別に、平日昼間、平日夜間、土曜日、日曜日の4区分で行い、平日夜間については中村及び中保健センターの集計結果を再掲した。各検査時間帯のアンケート回答者数、検査件数及び回収割合は表1の通りである。回答者数はすべて延べ人数である。アンケートに回答したが検査を受けなかった者も存在するため、アンケート回答者数が検査件数を上回る場合がある。

表1. 検査時間帯・性別－回答者数（延べ人数）

	回答者数（人）					検査件数	回収割合（%）
	全体	男性	女性	その他	無回答		
平日昼間	4,529	3,256	1,221	21	31	4,424	100.0
平日夜間	196	146	48	1	—	195	100.0
（再掲）中村夜間	17	13	3	—	1	17	100.0
（再掲）中夜間	179	133	45	4	2	178	100.0
土曜日	845	719	120	4	7	841	100.0
日曜日	770	626	133	30	41	770	100.0
全体	6,340	4,747	1,522	30	41	6,230	100.0

※アンケート回答者の中に検査を受けなかった者が存在するため、回答者数が検査件数を上回る場合がある。

なお、回収割合が100%を超える場合も「100%」と表示している。

※一部の検査会場では実施しなかった質問がある。そのため、回答者数が上表とは異なる質問が存在する。

<結果>

1. 各質問の集計結果

問1. 性別

回答者全体の性別内訳は、男性74.9%、女性24.0%、その他0.5%であった。検査時間帯別にみると、男性の割合は土曜日が85.1%で最も高く、以下は日曜日が81.3%、平日夜間が74.5%、平日昼間が71.9%の順であった。

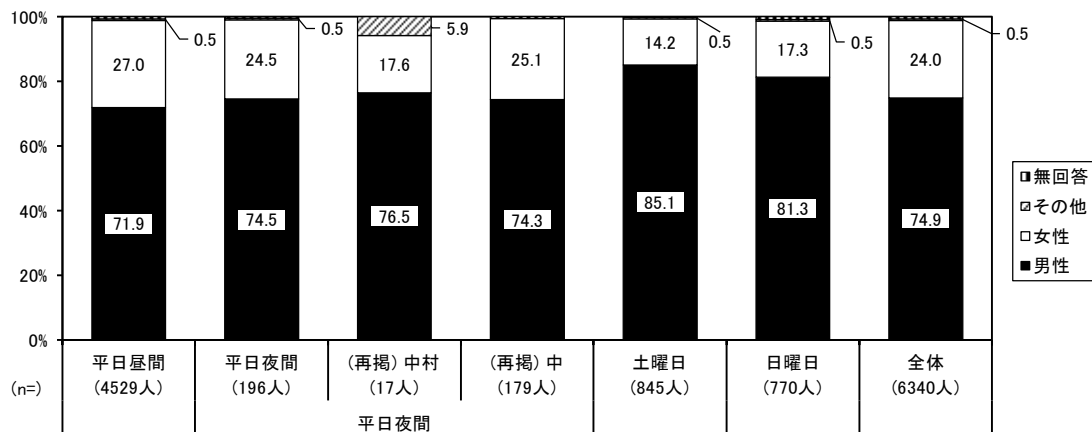


図1. 検査時間帯別－回答者の性別

問 2. 年齢層

30 歳代以下の割合は、回答者全体の 64.1%であった。検査時間帯別にみると、30 歳代以下の割合は平日夜間が 78.1%で最も高く、以下は土曜日が 66.4%、日曜日が 64.8%、平日昼間が 63.0%の順であった。

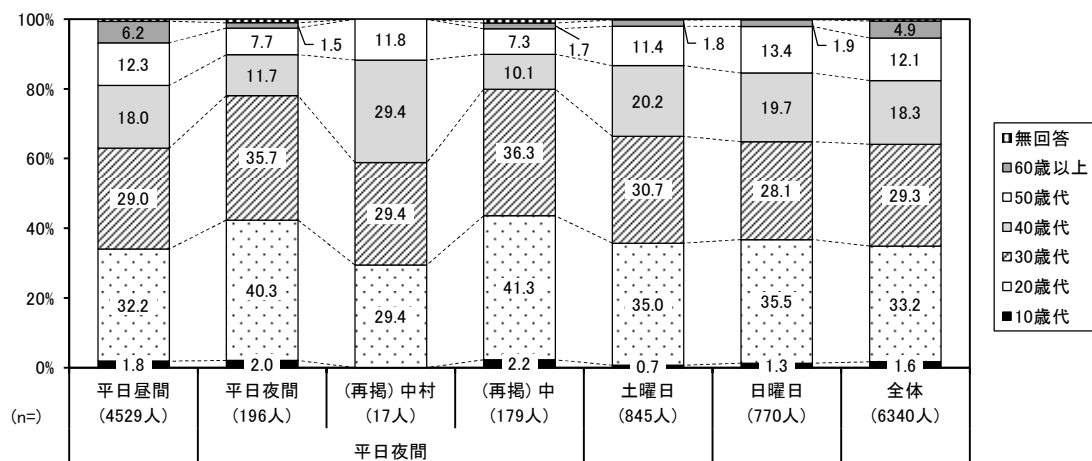


図 2. 検査時間帯別－回答者の年齢層

回答者の年齢層について、経年変化を図 3 に示した。30 歳代以下の割合は、平成 30 年度から 4 年連続で上昇していたが、令和 4 年度・令和 5 年度と 2 年連続で低下した。令和 5 年度における 30 歳代以下の割合は 64.1%であり、前年度の 66.5%と比べて 2.4 ポイント低下した。

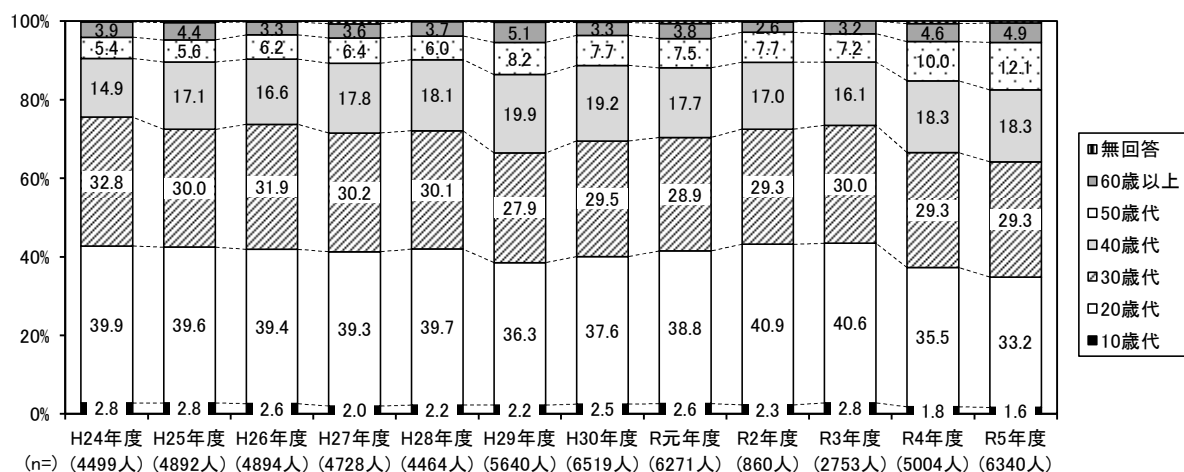


図 3. 経年変化－回答者の年齢層

(年齢層別にみた性別構成割合)

年齢層別に回答者の性別構成割合をみると、10歳代では男性の割合が51.5%であったが、年齢層が高くなるにつれて男性の割合が上昇し、60歳以上では92.3%が男性であった。

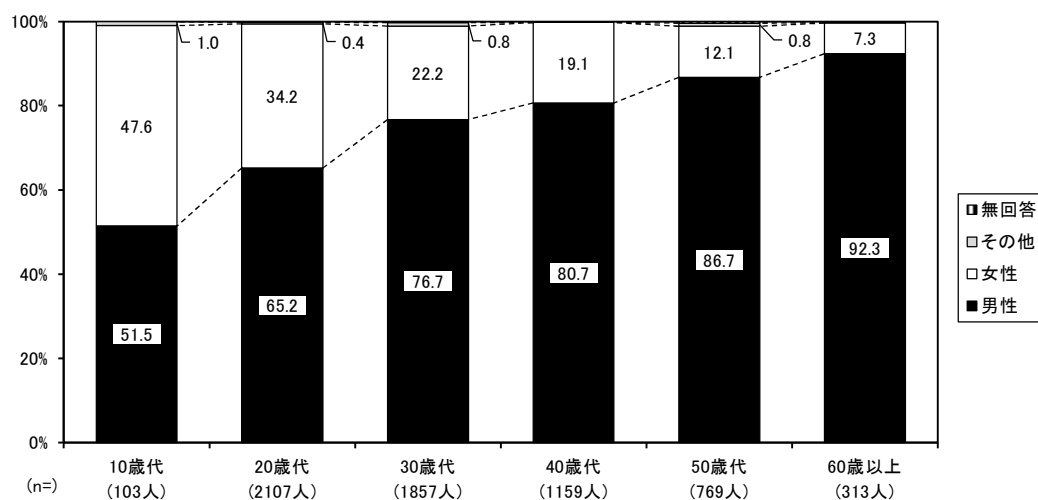


図 4. 年齢層別－回答者の性別構成割合

(性・年齢層別にみた令和5年度と令和4年度の回答者数)

令和5年度のアンケート回答者数は6,340人であり、前年度の5,004人より1,336人(26.7%)増加した。年齢層別にみると、回答者数はすべての年齢層において前年度より増加した。男女別にみても、回答者数はすべての年齢層において前年度より増加した。

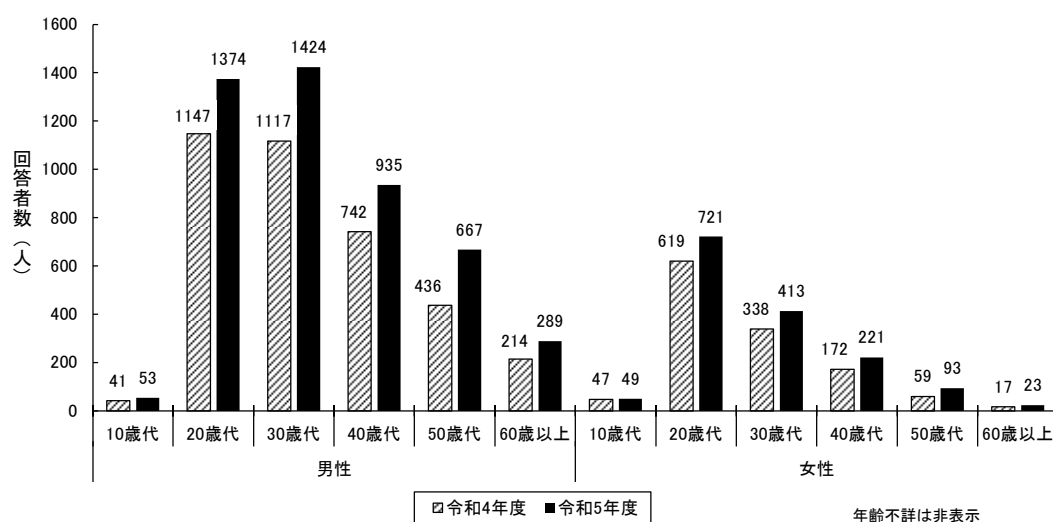


図 5. 性・年齢層別－令和5年度と令和4年度の回答者数

問 3. 居住地

回答者全体に占める名古屋市内在住者の割合は 68.0%で、前年度の 66.4%から 1.6 ポイント上昇した。検査時間帯別にみると、市内在住者の割合は平日昼間が 72.1%で最も高く、以下は平日夜間が 65.3%、日曜日が 60.4%、土曜日が 53.6%の順であった。愛知県外在住者の割合は、土曜日が 11.1%で最も高く、以下は日曜日が 7.9%、平日夜間が 7.7%、平日昼間が 3.7%の順であった。

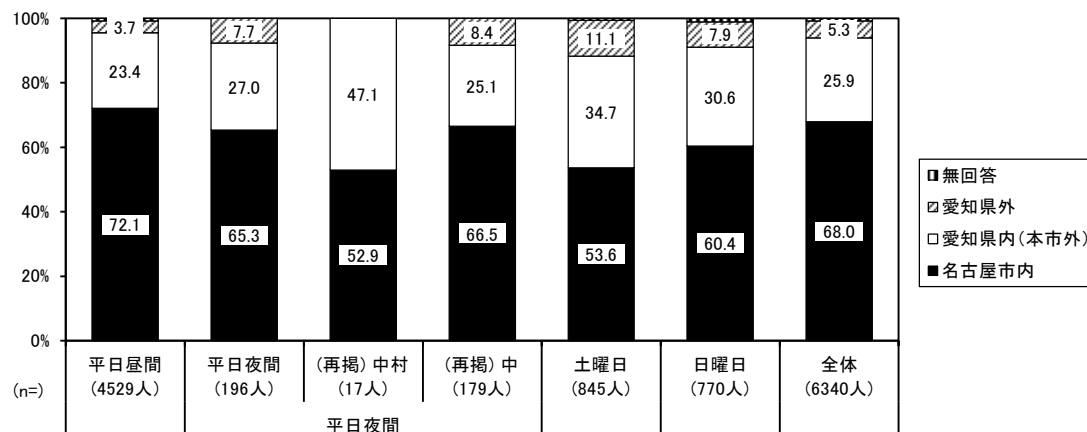


図 6. 検査時間帯別－回答者の居住地

問 4. 今回の検査を知った情報源

回答者全体では、「名古屋市ホームページ」と回答した人が 76.5%で最も多く、以下は「友人・知人」が 7.0%、「市役所等への電話照会」が 5.5%の順であった。各検査時間帯とも「名古屋市ホームページ」が最も多かった。

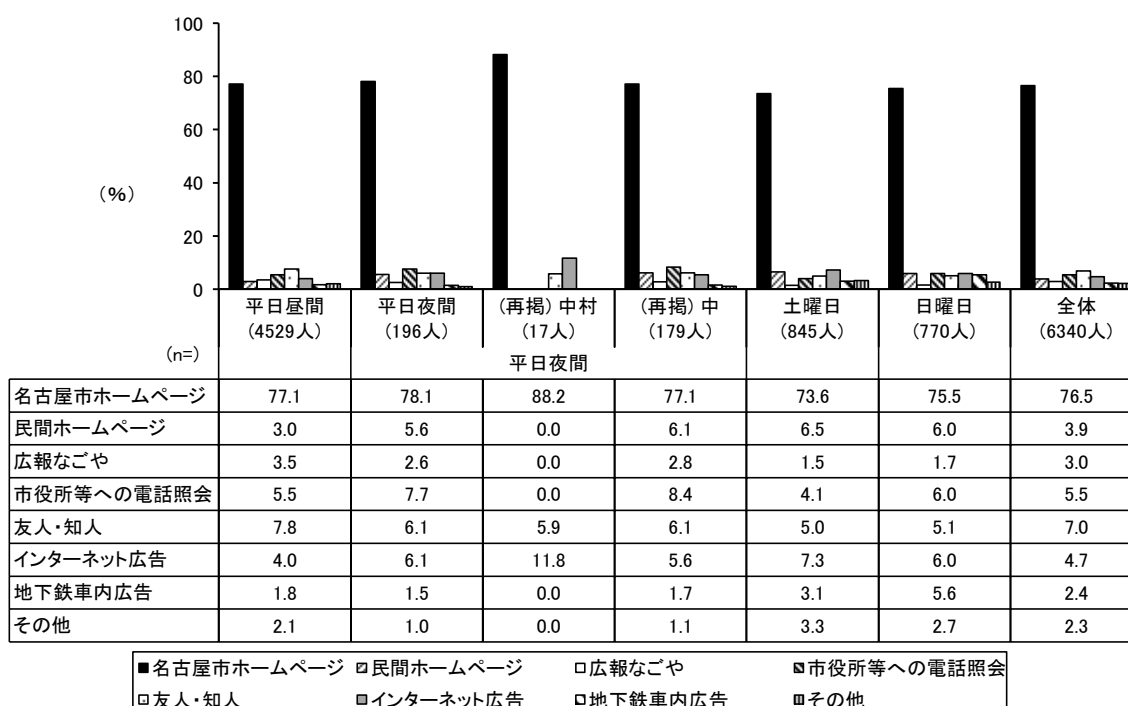


図 7. 検査時間帯別－今回の検査を知った情報源（複数選択可）

今回の検査を知った情報源を年齢層別にみると、すべての年齢層で「名古屋市ホームページ」が最も多かった。2番目に多かった情報源は、10～30歳代では「友人・知人」、40歳代では「民間ホームページ」、50歳代では「インターネット広告」、60歳以上では「広報なごや」であった。

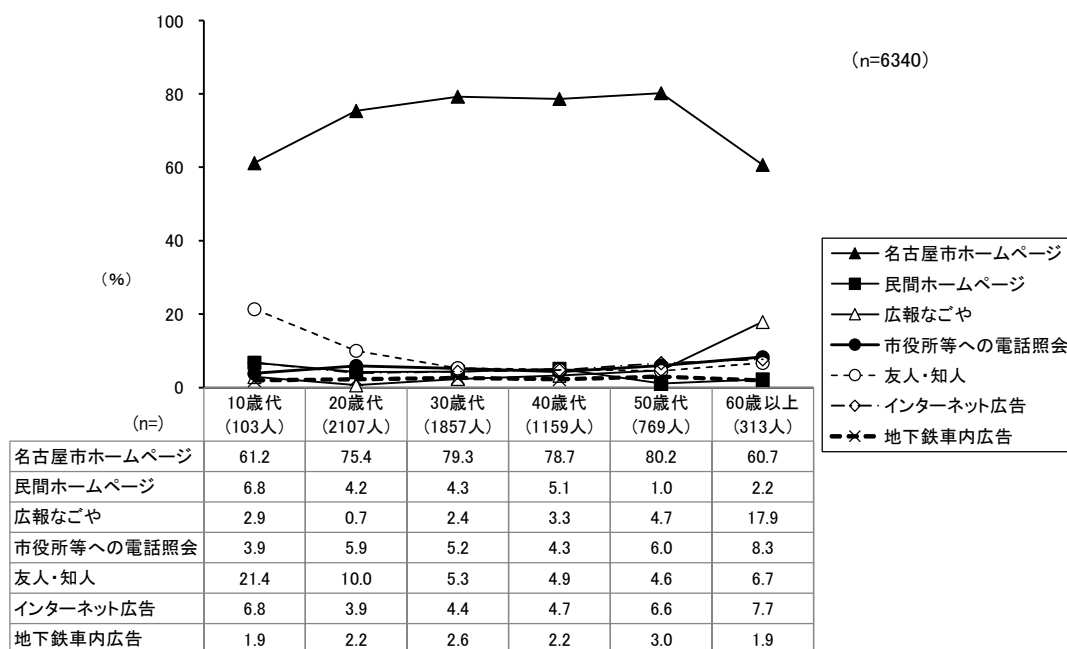


図 8. 年齢層別－今回の検査を知った情報源（複数選択可）

問 5. 今回の検査を受けた理由

回答者全体をみると、「ただ単に感染の有無を知りたいから」が 70.3%で最も多く、以下は「HIV*の情報に触れて感染が心配になったから」が 23.2%、「定期的に検査を受けているから」が 18.5%の順であった。「身近な人（パートナーなど）が HIV*に感染していることがわかったから」は 4.3%であった。

*：平日夜間検査以外の調査票では「HIV／性感染症」という表記になっている。

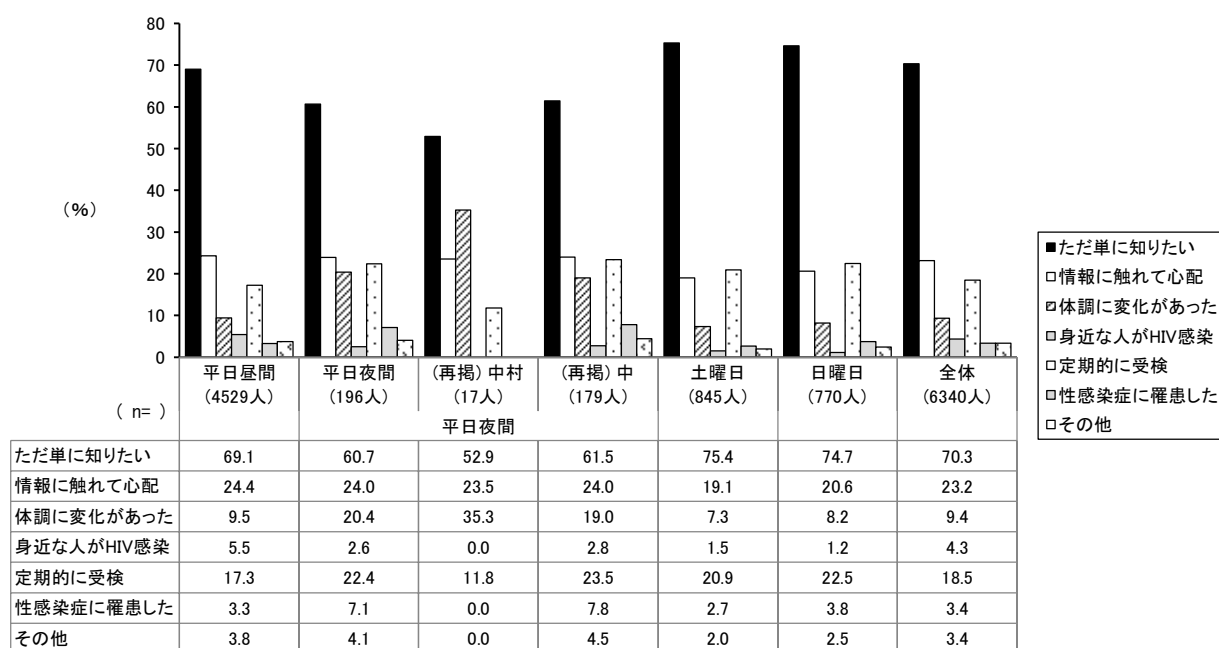


図 9. 検査時間帯別－今回の検査を受けた理由（複数選択可）

問 6. 感染が心配な出来事

回答者全体をみると、感染が心配な出来事は「異性間性的接触」が 82.2%で最も多く、次いで「同性間性的接触」が 15.4%であった。「同性間性的接触」の割合を検査時間帯別にみると、平日夜間が 25.5%で最も高く、以下は土曜日が 23.6%、日曜日が 21.6%、平日昼間が 12.4%の順であった。

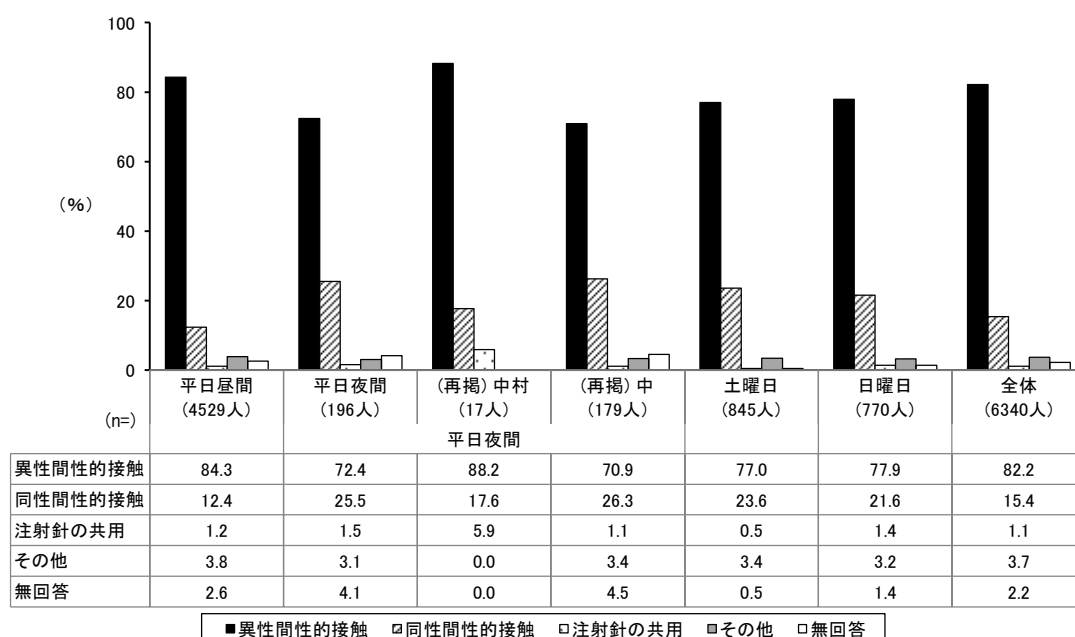


図 10. 検査時間帯別－感染が心配な出来事（複数選択可）

男性を対象に、「異性間性的接触」・「同性間性的接触」のそれぞれに回答した割合を年齢層別に集計した。「同性間性的接触」と回答した割合は男性の 19.6%であった。「同性間性的接触」と回答した割合を年齢層別にみると、10 歳代が 34.0%で最も高く、高齢になるほど割合が低下していた。

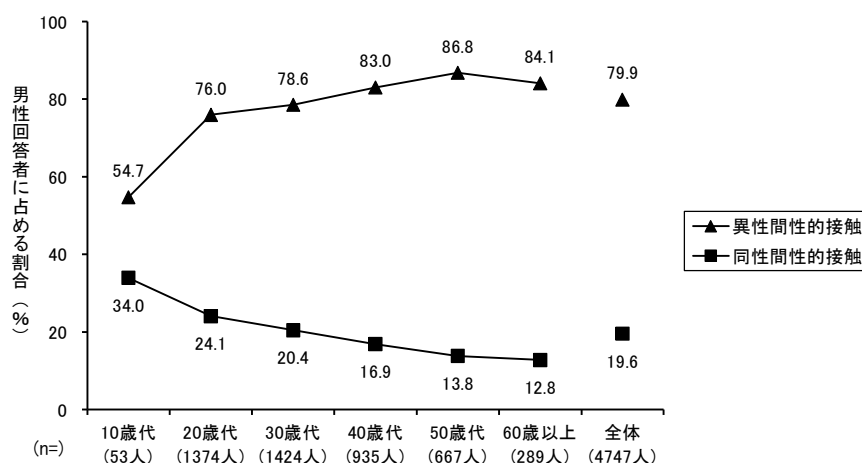


図 11. 男性の年齢層別－感染が心配な出来事（複数選択可）

(回答者に占める男性同性愛者の割合)

性別で「男性」を選択し、かつ感染が心配な出来事として「同性間性的接触」を選択した者を男性同性愛者（MSM: men who have sex with men）と定義し、集計を行った。令和5年度の回答者全体のうちMSM該当者は929人であり、前年度より257人増加した。回答者全体に占めるMSMの割合は14.7%で、前年度より1.3ポイント上昇した。

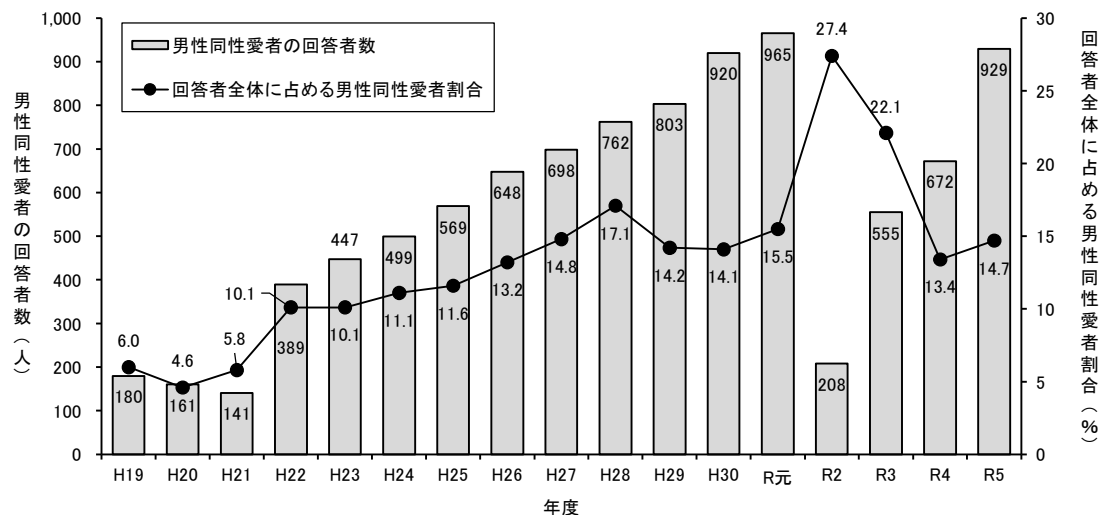


図 12. 回答者全体に占める男性同性愛者の人数及び割合

問 7. 感染が心配な出来事を経験した場所

回答者全体でみると、感染が心配な出来事を経験した場所は、「国内」が 93.6%、「国外」が 3.7%、「わからない」が 1.3%であった。「国外」の割合は、平日夜間が 5.6%で最も高く、以下は平日昼間が 3.8%、日曜日が 3.1%、土曜日が 2.8%の順であった。

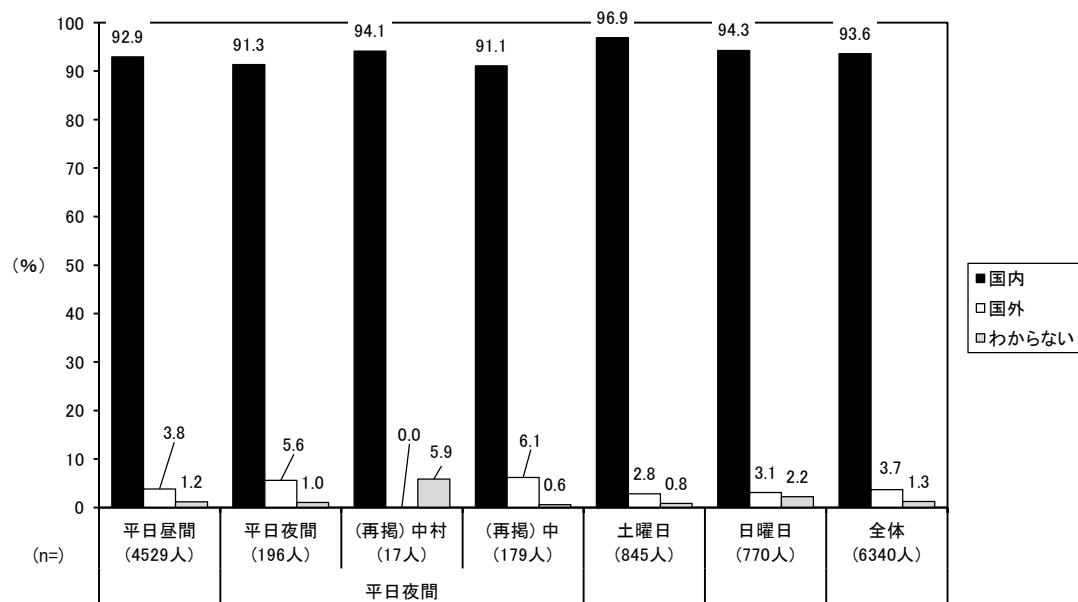


図 13. 検査時間帯別－感染が心配な出来事を経験した場所

問 8. 感染が心配な出来事からの経過期間

回答者全体でみると、「2 か月以内」は 29.7%、「2 か月～3 か月」は 21.4%、「3 か月以上」は 46.1%であった。ウインドウ期間に相当する 3 か月未満に該当した人（「2 か月以内」または「2 か月～3 か月」と回答した人）は回答者全体の 51.0%であった。3 か月未満の割合を検査時間帯別にみると、平日昼間が 52.9%で最も高く、以下は土曜日が 49.6%、日曜日が 45.5%、平日夜間が 36.7%の順であった。

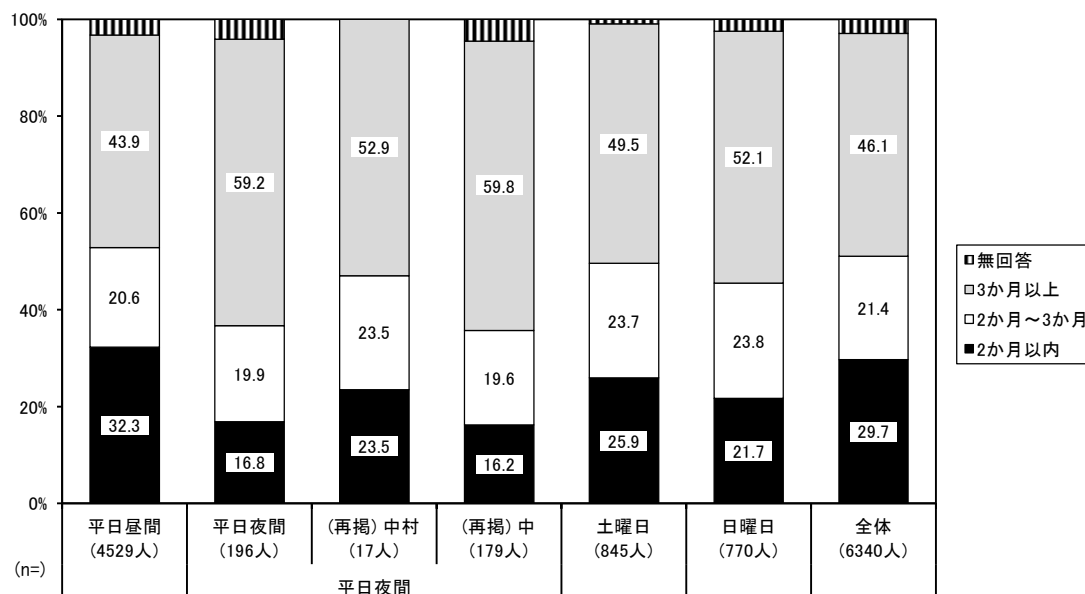


図 14. 検査時間帯別－感染が心配な出来事からの経過期間

感染が心配な出来事からの経過期間を年齢層別にみると、ウインドウ期間に相当する 3 か月未満の割合は 10 歳代が 55.3%で最も高く、以下は 20 歳代が 53.9%、40 歳代が 50.9%の順であった。

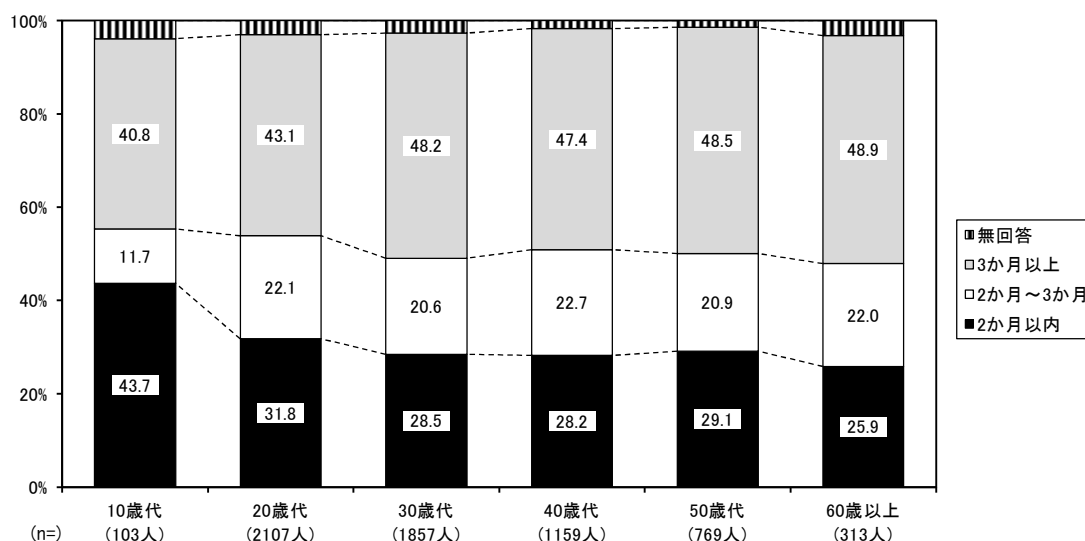


図 15. 年齢層別－感染が心配な出来事からの経過期間

問 9. 過去の HIV／性感染症検査の受検経験

過去（今回を含まない）の HIV／性感染症検査の受検経験をみると、回答者全体では、受検経験が「ない」人は 41.5%、「ある」人は 57.5%であった。受検経験が「ない」人の割合は、平日昼間が 43.4%で最も高く、以下は平日夜間と土曜日が 37.2%、日曜日が 35.7%の順であった。

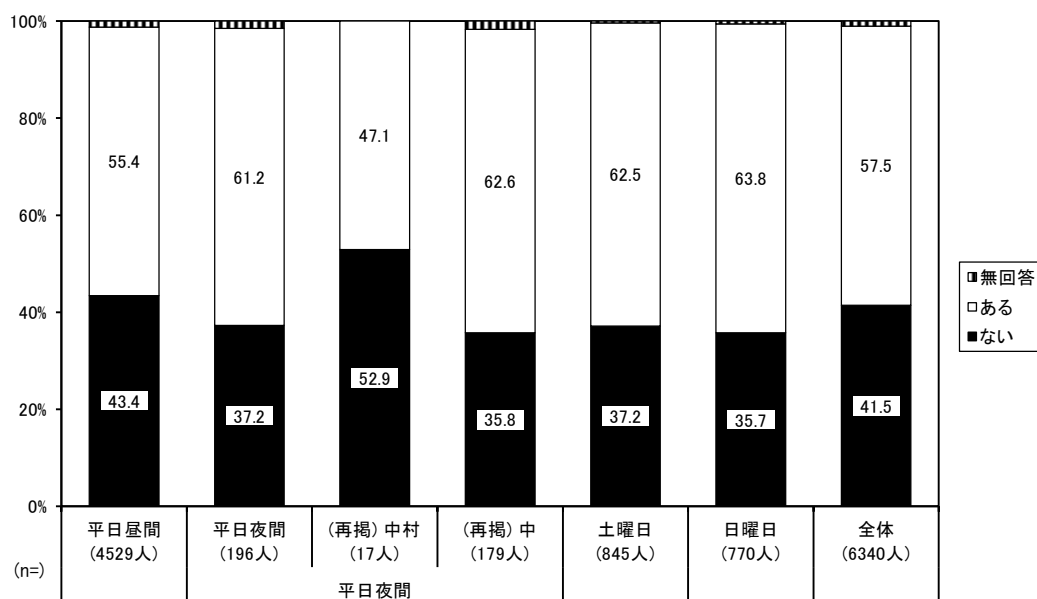


図 16. 検査時間帯別－過去の HIV／性感染症検査の受検経験

年齢層別に過去の HIV／性感染症検査の受検経験をみると、受検経験が「ない」人の割合は 10 歳代が 83.5%で最も高く、以下は 20 歳代が 53.6%、30 歳代が 37.1%の順であった。

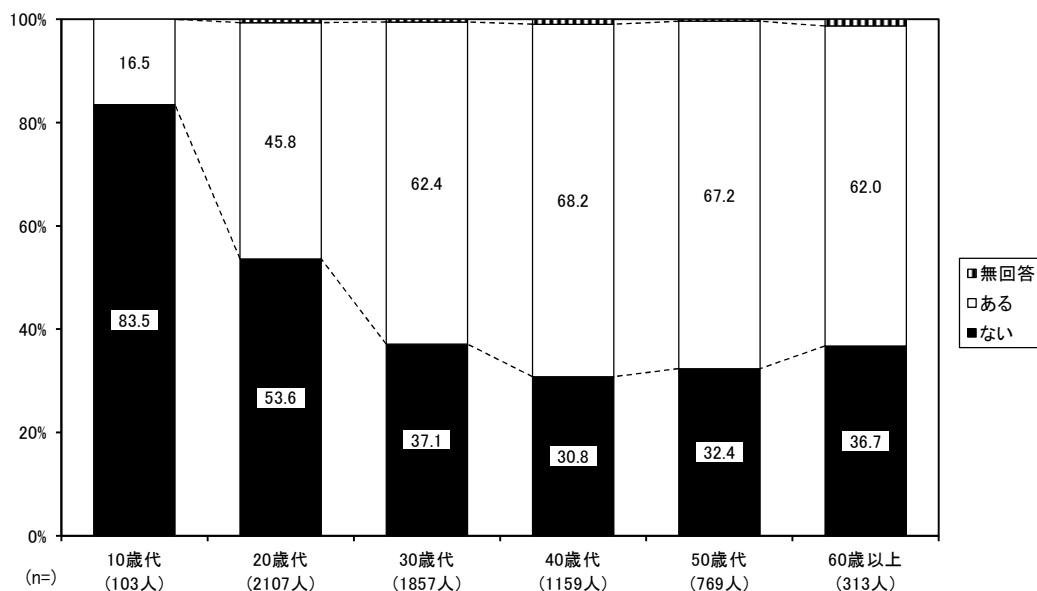


図 17. 年齢層別－過去の HIV／性感染症検査の受検経験

問 10-1. 最近 1 年以内の HIV／性感染症検査の受検経験

過去に HIV／性感染症検査を受けたことが「ある」と回答した 3,647 人を対象に、最近 1 年以内の受検経験を尋ねたところ、2,291 人（62.8%）が「ある」と回答した。すなわち、回答者全体（6,340 人）のうち、36.1%が最近 1 年以内に受検経験していた計算になる。

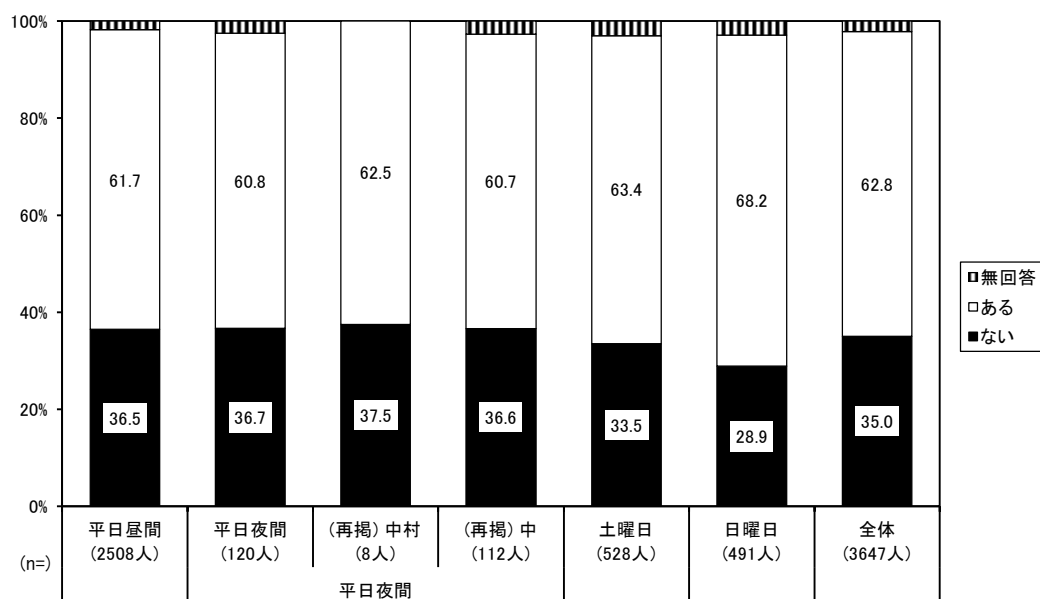


図 18. 検査時間帯別－最近 1 年以内の受検経験（過去に受検経験がある人を対象に集計）

問 10-2. 最近 1 年以内に HIV／性感染症検査を受けた場所

最近 1 年以内に HIV／性感染症検査を受けたことがある 2,291 人を対象に、HIV／性感染症検査を受けた場所を尋ねたところ、回答者全体では「平日昼間」が 48.0%で最も多く、以下は「医療機関」が 33.6%、「土曜日」と「日曜日」が 13.6%の順であった。

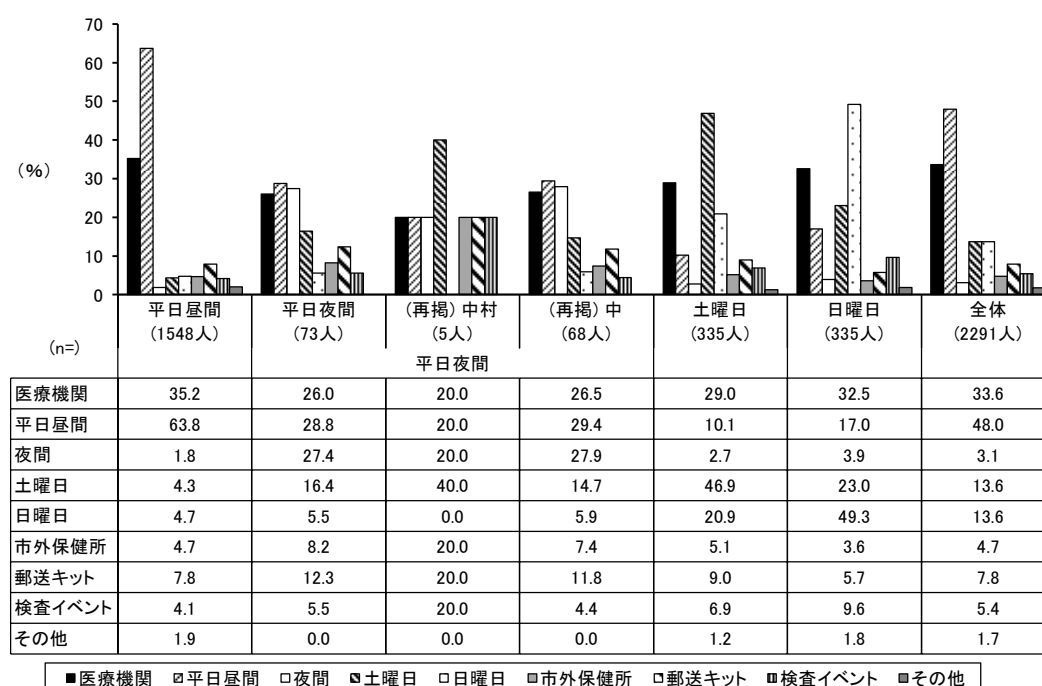


図 19. 検査時間帯別－最近 1 年以内に受検した場所（複数選択可）
（最近 1 年以内に受検経験がある人を対象に集計）

問 10-3. 最近 1 年以内に受けた HIV／性感染症検査の検査項目

最近 1 年以内に HIV／性感染症検査を受けたことがある 2,291 人を対象に、受けた検査項目を尋ねたところ、回答者全体では「HIV」が 88.9%で最も多く、以下は「梅毒」が 83.8%、「クラミジア」が 55.7%の順であった。

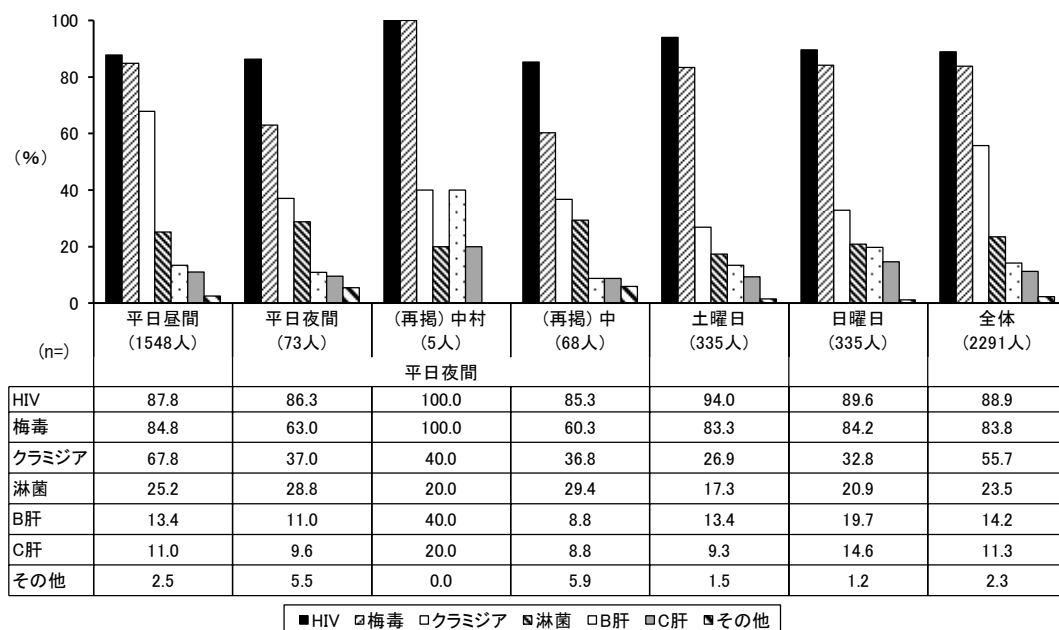


図 20. 検査時間帯別ー最近 1 年以内に受検した検査項目（複数選択可）
（最近 1 年以内に受検経験がある人を対象に集計）

問 11. 梅毒・性器クラミジア感染症の既往歴

性感染症検査の会場には、梅毒検査のみを行う検査会場（A 会場）と、梅毒及び性器クラミジア感染症検査を行う検査会場（B 会場）が存在する。梅毒に関する質問は A 会場及び B 会場の両会場で実施され、性器クラミジア感染症に関する質問は B 会場のみで実施された。梅毒及び性器クラミジア感染症に関する質問の回答者数は表 2 及び表 3 のとおりである。

表 2. 梅毒に関する質問の回答者数（延べ人数）

(単位 人)								
性別	全体	(%)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上 無回答
男性	4,614	(74.9)	51	1,326	1,373	918	657	286 3
女性	1,477	(24.0)	47	696	399	220	90	23 2
その他	30	(0.5)	1	8	15	-	6	-
無回答	40	(0.6)	-	3	5	3	3	1 25
全体	6,161	(100.0)	99	2,033	1,792	1,141	756	310 30

表 3. 性器クラミジア感染症に関する質問の回答者数（延べ人数）

(単位 人)								
性別	全体	(%)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上 無回答
男性	2,075	(71.5)	26	563	570	402	325	188 1
女性	782	(26.9)	35	334	217	116	60	19 1
その他	20	(0.7)	-	6	11	-	3	-
無回答	26	(0.9)	-	1	-	1	2	- 22
全体	2,903	(100.0)	61	904	798	519	390	207 24

梅毒及び性器クラミジア感染症の既往歴有無を尋ねたところ、既往歴がある人の割合は梅毒が6.2%、性器クラミジア感染症が18.9%であった。

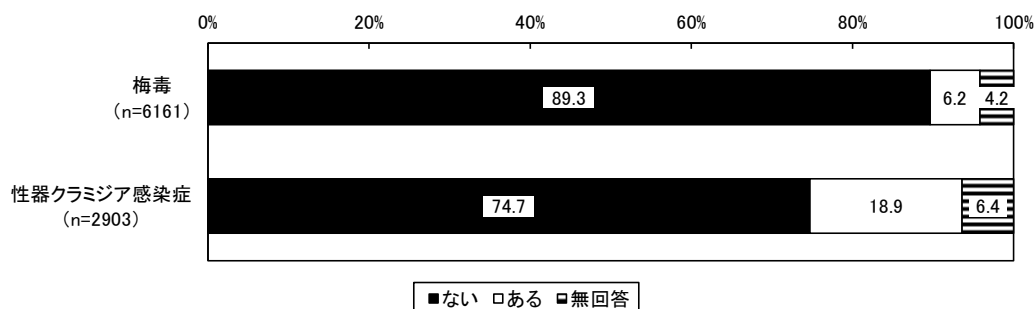


図 21. 梅毒及び性器クラミジア感染症の既往歴

梅毒検査と性器クラミジア感染症検査では検査件数が異なるため、両者は回答者数が異なる。

問 12. 性器クラミジア感染症検査について(排尿時間、月経)

性器クラミジア感染症検査は、排尿から1時間以上経過していない場合や月経中の場合に、検査結果が正確に出ないことがある。最後の排尿から1時間以上経過していない人は11.5%であった。また、現在月経中の人(女性のみを集計)は9.1%であった。

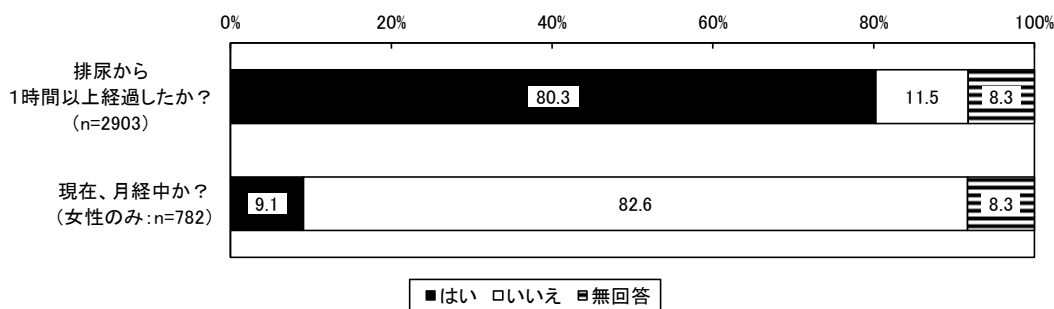


図 22. 排尿からの経過時間及び月経に関する回答

2. 男性同性愛者と非男性同性愛者の比較

性別で「男性」を選択し、かつ感染が心配な出来事として「同性間性的接触」を選択した男性を男性同性愛者(MSM)、「同性間性的接触」以外を選択した男性を非男性同性愛者(非MSM)と定義して、MSMと非MSMの回答結果を比較した。MSMは929人(男性の19.6%)、非MSMは3,733人(男性の78.6%)であった。

表 4. 年齢層及びMSM・非MSM別にみた男性回答者数(延べ人数)

	(単位 人)							
	全体	(%)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
男性同性愛者(MSM)	929	(19.6)	18	331	291	158	92	37
非男性同性愛者(非MSM)	3,733	(78.6)	29	1,020	1,106	767	567	241
不詳	85	(1.8)	6	23	27	10	8	11
男性全体	4,747	(100.0)	53	1,374	1,424	935	667	289

男性同性愛者(MSM)；感染が心配な出来事に関する質問で「同性間性的接触」を選択した男性

非男性同性愛者(非MSM)；感染が心配な出来事に関する質問で「同性間性的接触」以外を選択した男性

不詳；感染が心配な出来事に関する質問に無回答の男性

年齢構成をみると MSM は 20 歳代、非 MSM は 30 歳代が最も多かった。30 歳代以下の割合は、MSM が 68.9%、非 MSM が 57.7%であり、MSM の方が 11.2 ポイント高かった（図 23 左）。

居住地をみると、名古屋市内在住者の割合は MSM が 62.6%、非 MSM が 68.3%であり、非 MSM の方が 5.7 ポイント高かった（図 23 右）。

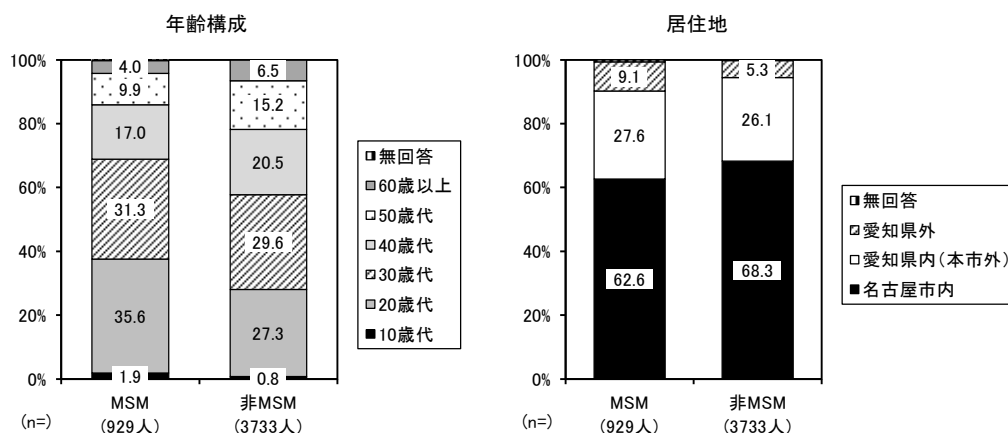


図 23. MSM・非 MSM 別一年齢構成及び居住地

今回の検査を知った情報源は、MSM、非 MSM ともに「名古屋市ホームページ」が 70%以上で最も多かった。以下は、MSM では「民間ホームページ」が 8.1%、「友人・知人」が 7.8%の順であり、非 MSM では「友人・知人」が 5.3%、「市役所等への電話照会」が 5.0%の順であった。

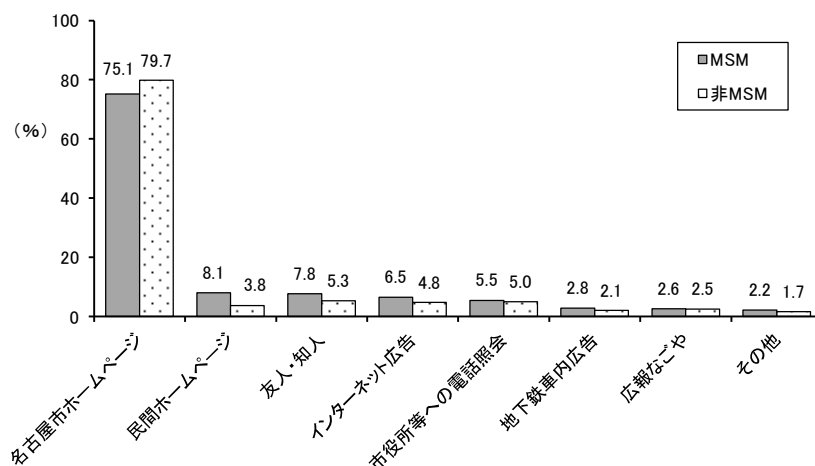


図 24. MSM・非 MSM 別－今回の検査を知った情報源（複数選択可）

感染が心配な出来事を経験した場所をみると、「国内」は MSM が 97.1%、非 MSM が 94.9%であり、MSM の方が 2.2 ポイント高かった（図 25 左）。

感染が心配な出来事からの経過期間をみると、ウィンドウ期間に相当する 3 か月未満の割合は、MSM が 46.3%、非 MSM が 53.3%であり、非 MSM の方が 7.0 ポイント高かった（図 25 右）。

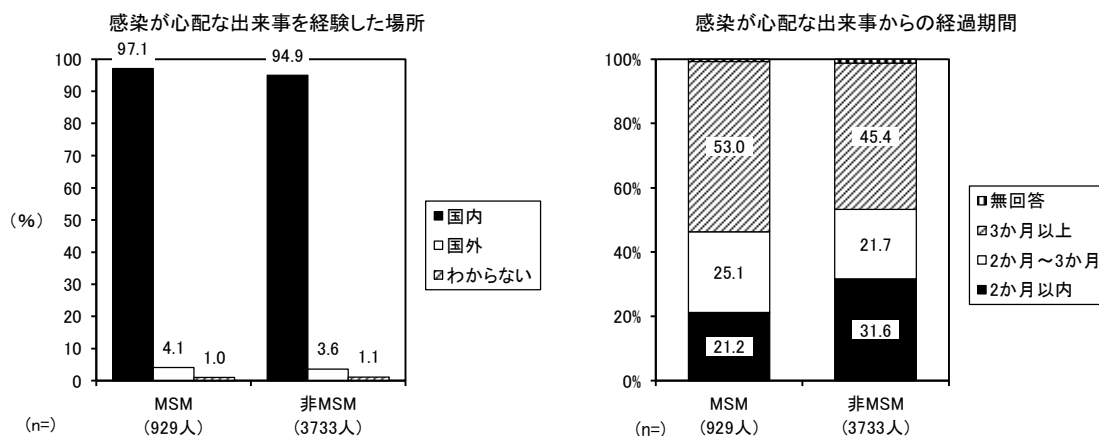


図 25. MSM・非MSM 別－感染が心配な出来事を経験した場所（複数選択可）及び経過期間

過去の HIV／性感染症検査の受検経験をみると、受検経験が「ある」人の割合は、MSM が 79.2%、非MSM が 54.8%であり、MSM の方が 24.4 ポイント高かった（図 26 左）。

過去に HIV／性感染症検査を受検したことが「ある」と回答した人（MSM：736 人、非MSM：2,047 人）を対象に、最近 1 年以内の受検経験を尋ねたところ、受検したことが「ある」人の割合は、MSM が 66.7%、非MSM が 61.4%であり、MSM の方が 5.3 ポイント高かった（図 26 右）。最近 1 年以内に受検したことがある人の割合を、回答者全体（MSM：929 人、非MSM：3,733 人）を母数として算出すると、MSM が 52.9%、非MSM が 33.6%であり、MSM の方が 19.3 ポイント高かった。

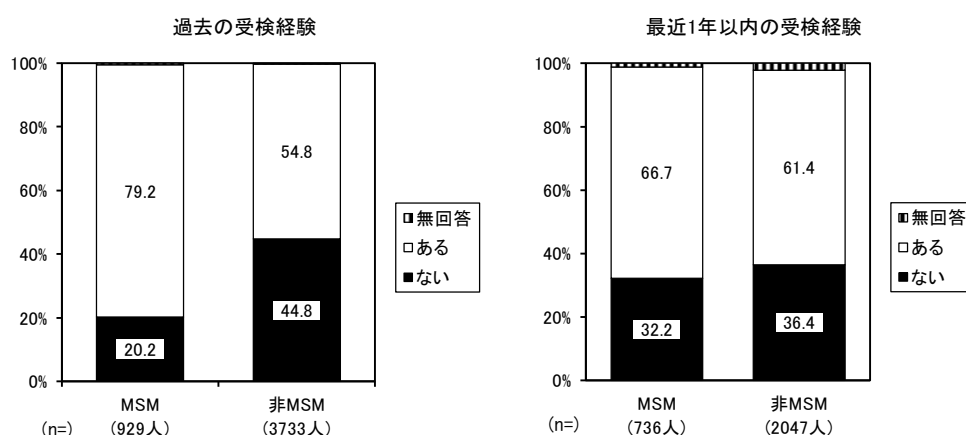


図 26. MSM・非MSM 別－HIV／性感染症検査の受検経験

右上図（最近 1 年以内の受検経験）については、過去に受検経験がある人を母数として割合を算出した。

<まとめ>

- ・ 各年齢層とも、名古屋市ホームページから検査の情報を得た人の割合が最も高かった。
- ・ 回答者全体のうち、MSM の割合は 14.7%で、前年度より 1.3 ポイント上昇した。
- ・ 感染が心配な出来事からの経過期間が 3 か月未満（ウインドウ期間に相当）であった人は、回答者全体の 51.0%であった。特に 10 歳代では 55.3%が 3 か月未満に受検していた。
- ・ 回答者全体のうち、過去に HIV／性感染症検査を受けたことがある人は 57.5%であった。
- ・ 回答者全体のうち、梅毒の既往歴がある人は 6.2%、性器クラミジア感染症の既往歴がある人は 18.9%であった。

HIV／性感染症検査を受けられる方へ

今回は、HIV／性感染症検査にご来所いただきありがとうございました。この質問票を参考に、検査の説明等をさせていただきます。また、HIV／性感染症検査をより良くするための統計用資料としても活用させていただきます。この質問によって、個人が特定されるようなことは決してありません。ご協力をお願いいたします。

問1. 性別

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 男性(3256人, 71.9%) | 2. 女性(1221人, 27.0%) |
| 3. その他(21人, 0.5%) | 無回答(31人, 0.7%) |

問2. 年代

- | | | |
|---------------------|----------------------|----------------------|
| 1. 10代(83人, 1.8%) | 2. 20代(1459人, 32.2%) | 3. 30代(1312人, 29.0%) |
| 4. 40代(813人, 18.0%) | 5. 50代(555人, 12.3%) | 6. 60代以上(280人, 6.2%) |
| | | 無回答(27人, 0.6%) |

問3. お住まい

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1. 名古屋市内(3264人, 72.1%) | 2. 愛知県内(名古屋市以外)(1062人, 23.4%) |
| 3. 愛知県外(167人, 3.7%) | 無回答(36人, 0.8%) |

問4. 今回の検査はどのようにお知りになりましたか。(複数回答可)

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1. 名古屋市ホームページ(3493人, 77.1%) | 2. 民間ホームページ(138人, 3.0%) |
| 3. 広報なごや(160人, 3.5%) | 4. 市役所・保健センターへの電話照会(251人, 5.5%) |
| 5. 友人・知人(351人, 7.8%) | |
| 6. インターネット広告(名古屋市ホームページへリンクしているもの)(181人, 4.0%) | |
| 7. 名古屋市地下鉄車両の広告(扉のステッカー等)(80人, 1.8%) | |
| 8. その他(94人, 2.1%) | 無回答(55人, 1.2%) |

問5. 今回、検査を受けられる理由をお教えてください。(複数回答可)

- | | |
|---|----------------|
| 1. ただ単に感染の有無を知りたいから | (3128人, 69.1%) |
| 2. HIV／性感染症の情報にふれて感染が心配になったから | (1103人, 24.4%) |
| 3. 体調に変化があり、HIV／性感染症の感染が心配になったから | (428人, 9.5%) |
| 4. 身近な人(パートナーなど)がHIV／性感染症に感染していることがわかったから | (248人, 5.5%) |
| 5. 定期的に検査を受けているから | (782人, 17.3%) |
| 6. 性感染症にかかったから | (150人, 3.3%) |
| 7. その他 | (171人, 3.8%) |
| 無回答 | (46人, 1.0%) |

問6. あなたにとって「感染が心配」だと考えられる出来事は、どの様なことでしたか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 異性との性的接触(3820人, 84.3%) | 2. 同性との性的接触(561人, 12.4%) |
| 3. 注射針の共用(53人, 1.2%) | 4. その他(174人, 3.8%) |
| | 無回答(117人, 2.6%) |

問7. 問6の出来事はどこで経験しましたか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 国内(4208人, 92.9%) | 2. 国外(173人, 3.8%) |
| 3. わからない(54人, 1.2%) | 無回答(162人, 3.6%) |

問8. 「感染が心配」だと考えられる出来事から今日までに、どのくらいの期間がすぎましたか。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 2か月以内(1461人, 32.3%) | 2. 2か月～3か月(933人, 20.6%) |
| 3. 3か月以上(1987人, 43.9%) | 無回答(148人, 3.3%) |

問9. これまでに(今回の検査を除いて)HIV／性感染症検査を受けたことがありますか。

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. ない(1966人, 43.4%)→ | (問11へ進む) |
| 2. ある(2508人, 55.4%)→ | (問10へ進む) |
| 無回答(55人, 1.2%) | |

問 10. 問9で「2. ある」と答えられた方について、お尋ねします。【回答者：2,508 人】

10-1 この1年間に検査を受けましたか。

1. ない(915 人, 36.5%) 2. ある(1548 人, 61.7%) 無回答(45 人, 1.8%)

10-2 この1年間に検査を受けた場所を教えてください。(複数回答可)【回答者：1,548 人】

1. 医療機関(545 人, 35.2%)
2. 名古屋市内の保健センター
 平日昼間(987 人, 63.8%) 平日夜間(28 人, 1.8%)
 土曜日(66 人, 4.3%) 日曜日(73 人, 4.7%)
3. 名古屋市以外の保健所(72 人, 4.7%)
4. 郵送検査キット(121 人, 7.8%)
5. 検査イベント (NLGR 検査会等) (64 人, 4.1%)
6. その他(30 人, 1.9%)
無回答(14 人, 0.9%)

10-3 この1年間に受けた検査項目を教えてください。(複数回答可)【回答者：1,548 人】

1. HIV(1359 人, 87.8%) 2. 梅毒(1313 人, 84.8%)
3. クラミジア(1050 人, 67.8%) 4. 淋菌感染症(390 人, 25.2%)
5. B型肝炎ウイルス(207 人, 13.4%) 6. C型肝炎ウイルス(171 人, 11.0%)
7. その他(39 人, 2.5%) 無回答(16 人, 1.0%)

※問 11-2 および問 12 については、性器クラミジア感染症検査を実施する会場においてのみ実施した。

問 11. 既往歴について

11-1 これまでに梅毒にかかったことはありますか。【回答者：4,529 人】

1. ない(4043 人, 89.3%) 2. ある(265 人, 5.9%) 無回答(221 人, 4.9%)

11-2 これまでに性器クラミジア感染症にかかったことはありますか。【回答者：2,903 人】

1. ない(2168 人, 74.7%) 2. ある(549 人, 18.9%) 無回答(186 人, 6.4%)

問 12. 性器クラミジア感染症検査について【回答者：2,903 人】

12-1 最後の排尿から1時間以上経過していますか。

1. はい(2330 人, 80.3%)
2. いいえ (検査結果が正確に出ないことがあります) (333 人, 11.5%)
無回答(240 人, 8.3%)

12-2 現在、月経ですか。(女性のみ回答ください。)(回答者：782 人)

1. はい (検査結果が正確に出ないことがあります) (71 人, 9.1%)
2. いいえ(646 人, 82.6%)
無回答(65 人, 8.3%)

検査前の質問は以上です。ありがとうございました。

HIV 検査を受けられる方へ

今回は、HIV 検査にご来所いただきありがとうございました。この質問票を参考に、検査の説明等をさせていただきます。また、HIV 検査をより良くするための統計用資料としても活用させていただきます。この質問によって、個人が特定されるようなことは決してありません。ご協力をお願いいたします。

問1. 性別

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 男性(146人, 74.5%) | 2. 女性(48人, 24.5%) |
| 3. その他(1人, 0.5%) | 無回答(1人, 0.5%) |

問2. 年代

- | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 10代(4人, 2.0%) | 2. 20代(79人, 40.3%) | 3. 30代(70人, 35.7%) |
| 4. 40代(23人, 11.7%) | 5. 50代(15人, 7.7%) | 6. 60代以上(3人, 1.5%) |
| | | 無回答(2人, 1.0%) |

問3. お住まい

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 名古屋市内(128人, 65.3%) | 2. 愛知県内(名古屋市以外)(53人, 27.0%) |
| 3. 愛知県外(15人, 7.7%) | 無回答(0人, 0.0%) |

問4. 今回の検査はどのようにお知りになりましたか。(複数回答可)

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1. 名古屋市ホームページ(153人, 78.1%) | 2. 民間ホームページ(11人, 5.6%) |
| 3. 広報なごや(5人, 2.6%) | 4. 市役所・保健センターへの電話照会(15人, 7.7%) |
| 5. 友人・知人(12人, 6.1%) | |
| 6. インターネット広告(名古屋市ホームページへリンクしているもの)(12人, 6.1%) | |
| 7. 名古屋市地下鉄車両の広告(扉のステッカー等)(3人, 1.5%) | |
| 8. その他(2人, 1.0%) | 無回答(2人, 1.0%) |

問5. 今回、検査を受けられる理由をお教えてください。

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| 1. ただ単に感染の有無を知りたいから | (119人, 60.7%) |
| 2. HIVの情報にふれて感染が心配になったから | (47人, 24.0%) |
| 3. 体調に変化があり、HIVの感染が心配になったから | (40人, 20.4%) |
| 4. 身近な人(パートナーなど)がHIVに感染していることがわかったから | (5人, 2.6%) |
| 5. 定期的に検査を受けているから | (44人, 22.4%) |
| 6. 性感染症にかかったから | (14人, 7.1%) |
| 7. その他 | (8人, 4.1%) |
| 無回答 | (1人, 0.5%) |

問6. あなたにとって「感染が心配」だと考えられる出来事は、どの様なことでしたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 異性との性的接触(142人, 72.4%) | 2. 同性との性的接触(50人, 25.5%) |
| 3. 注射針の共用(3人, 1.5%) | 4. その他(6人, 3.1%) |
| | 無回答(8人, 4.1%) |

問7. 問6の出来事はどこで経験しましたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 国内(179人, 91.3%) | 2. 国外(11人, 5.6%) |
| 3. わからない(2人, 1.0%) | 無回答(6人, 3.1%) |

問8. 「感染が心配」だと考えられる出来事から今日までに、どのくらいの期間がすぎましたか。

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 2か月以内(33人, 16.8%) | 2. 2か月～3か月(39人, 19.9%) |
| 3. 3か月以上(116人, 59.2%) | 無回答(8人, 4.1%) |

問9. これまでに(今回の検査を除いて)HIV検査/性感染症検査を受けたことがありますか。

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. ない(73人, 37.2%)→ | (問11へ進む) |
| 2. ある(120人, 61.2%)→ | (問10へ進む) |
| 無回答(3人, 1.5%) | |

問 10. 問9で「2. ある」と答えられた方について、お尋ねします。【回答者：120 人】

10-1 この1年間に検査を受けましたか。

1. ない(44 人, 36.7%) 2. ある(73 人, 60.8%) 無回答(3 人, 2.5%)

10-2 この1年間に検査を受けた場所を教えてください。(複数回答可)【回答者：73 人】

1. 医療機関(19 人, 26.0%)
2. 名古屋市内の保健センター
 平日昼間(21 人, 28.8%) 平日夜間(20 人, 27.4%)
 土曜日(12 人, 16.4%) 日曜日(4 人, 5.5%)
3. 名古屋市以外の保健所(6 人, 8.2%)
4. 郵送検査キット(9 人, 12.3%)
5. 検査イベント (NLGR 検査会等) (4 人, 5.5%)
6. その他(0 人, 0.0%)
無回答(3 人, 4.1%)

10-3 この1年間に受けた検査項目を教えてください。(複数回答可)【回答者：73 人】

1. HIV(63 人, 86.3%) 2. 梅毒(46 人, 63.0%)
3. クラミジア(27 人, 37.0%) 4. 淋菌感染症(21 人, 28.8%)
5. B型肝炎ウイルス(8 人, 11.0%) 6. C型肝炎ウイルス(7 人, 9.6%)
7. その他(4 人, 5.5%) 無回答(0 人, 0.0%)

※問 11 については、中村保健センターにおいてのみ実施した。

問 11. これまでに梅毒にかかったことはありますか。【回答者：17 人】

1. ない(17 人, 100.0%) 2. ある(0 人, 0.0%) 無回答(0 人, 0.0%)

検査前の質問は以上です。ありがとうございました。

HIV／性感染症検査を受けられる方へ

今回は、HIV／性感染症検査にご来所いただきありがとうございました。この質問票を参考に、検査の説明等をさせていただきます。また、HIV／性感染症検査をより良くするための統計用資料としても活用させていただきます。この質問によって、個人が特定されるようなことは決してありません。ご協力をお願いいたします。

問1. 性別

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 男性(719人, 85.1%) | 2. 女性(120人, 14.2%) |
| 3. その他(4人, 0.5%) | 無回答(2人, 0.2%) |

問2. 年代

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| 1. 10代(6人, 0.7%) | 2. 20代(296人, 35.0%) | 3. 30代(259人, 30.7%) |
| 4. 40代(171人, 20.2%) | 5. 50代(96人, 11.4%) | 6. 60代以上(15人, 1.8%) |
| | | 無回答(2人, 0.2%) |

問3. お住まい

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1. 名古屋市内(453人, 53.6%) | 2. 愛知県内(名古屋市以外)(293人, 34.7%) |
| 3. 愛知県外(94人, 11.1%) | 無回答(5人, 0.6%) |

問4. 今回の検査はどのようにお知りになりましたか。(複数回答可)

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1. 名古屋市ホームページ(622人, 73.6%) | 2. 民間ホームページ(55人, 6.5%) |
| 3. 広報なごや(13人, 1.5%) | 4. 市役所・保健センターへの電話照会(35人, 4.1%) |
| 5. 友人・知人(42人, 5.0%) | |
| 6. インターネット広告(名古屋市ホームページへリンクしているもの)(62人, 7.3%) | |
| 7. 名古屋市地下鉄車両の広告(扉のステッカー等)(26人, 3.1%) | |
| 8. その他(28人, 3.3%) | 無回答(10人, 1.2%) |

問5. 今回、検査を受けられる理由をお教えてください。(複数回答可)

- | | |
|---|---------------|
| 1. ただ単に感染の有無を知りたいから | (637人, 75.4%) |
| 2. HIV／性感染症の情報にふれて感染が心配になったから | (161人, 19.1%) |
| 3. 体調に変化があり、HIV／性感染症の感染が心配になったから | (62人, 7.3%) |
| 4. 身近な人(パートナーなど)がHIV／性感染症に感染していることがわかったから | (13人, 1.5%) |
| 5. 定期的に検査を受けているから | (177人, 20.9%) |
| 6. 性感染症にかかったから | (23人, 2.7%) |
| 7. その他 | (17人, 2.0%) |
| 無回答 | (4人, 0.5%) |

問6. あなたにとって「感染が心配」だと考えられる出来事は、どの様なことでしたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 異性との性的接触(651人, 77.0%) | 2. 同性との性的接触(199人, 23.6%) |
| 3. 注射針の共用(4人, 0.5%) | 4. その他(29人, 3.4%) |
| | 無回答(4人, 0.5%) |

問7. 問6の出来事はどこで経験しましたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 国内(819人, 96.9%) | 2. 国外(24人, 2.8%) |
| 3. わからない(7人, 0.8%) | 無回答(6人, 0.7%) |

問8. 「感染が心配」だと考えられる出来事から今日までに、どのくらいの期間がすぎましたか。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 2か月以内(219人, 25.9%) | 2. 2か月～3か月(200人, 23.7%) |
| 3. 3か月以上(418人, 49.5%) | 無回答(8人, 0.9%) |

問9. これまでに(今回の検査を除いて)HIV／性感染症検査を受けたことがありますか。

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. ない(314人, 37.2%)→ | (問11へ進む) |
| 2. ある(528人, 62.5%)→ | (問10へ進む) |
| 無回答(3人, 0.4%) | |

問 10. 問9で「2. ある」と答えられた方について、お尋ねします。【回答者：528 人】

10-1 この1年間に検査を受けましたか。

1. ない(177 人, 33.5%) 2. ある(335 人, 63.4%) 無回答(16 人, 3.0%)

10-2 この1年間に検査を受けた場所を教えてください。(複数回答可)【回答者：335 人】

1. 医療機関(97 人, 29.0%)
2. 名古屋市内の保健センター
 平日昼間(34 人, 10.1%) 平日夜間(9 人, 2.7%)
 土曜日(157 人, 46.9%) 日曜日(70 人, 20.9%)
3. 名古屋市以外の保健所(17 人, 5.1%)
4. 郵送検査キット(30 人, 9.0%)
5. 検査イベント(NLGR 検査会等)(23 人, 6.9%)
6. その他(4 人, 1.2%)
無回答(3 人, 0.9%)

10-3 この1年間に受けた検査項目を教えてください。(複数回答可)【回答者：335 人】

1. HIV(315 人, 94.0%) 2. 梅毒(279 人, 83.3%)
3. クラミジア(90 人, 26.9%) 4. 淋菌感染症(58 人, 17.3%)
5. B型肝炎ウイルス(45 人, 13.4%) 6. C型肝炎ウイルス(31 人, 9.3%)
7. その他(5 人, 1.5%) 無回答(3 人, 0.9%)

問 11. これまでに梅毒にかかったことはありますか。

1. ない(766 人, 90.7%) 2. ある(60 人, 7.1%) 無回答(19 人, 2.2%)

検査前の質問は以上です。ありがとうございました。

HIV／性感染症検査を受けられる方へ

今回は、HIV／性感染症検査にご来所いただきありがとうございました。この質問票を参考に、検査の説明等をさせていただきます。また、HIV／性感染症検査をより良くするための統計用資料としても活用させていただきます。この質問によって、個人が特定されるようなことは決してありません。ご協力をお願いいたします。

問1. 性別

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 男性(626人, 81.3%) | 2. 女性(133人, 17.3%) |
| 3. その他(4人, 0.5%) | 無回答(7人, 0.9%) |

問2. 年代

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| 1. 10代(10人, 1.3%) | 2. 20代(273人, 35.5%) | 3. 30代(216人, 28.1%) |
| 4. 40代(152人, 19.7%) | 5. 50代(103人, 13.4%) | 6. 60代以上(15人, 1.9%) |
| | | 無回答(1人, 0.1%) |

問3. お住まい

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1. 名古屋市内(465人, 60.4%) | 2. 愛知県内(名古屋市以外)(236人, 30.6%) |
| 3. 愛知県外(61人, 7.9%) | 無回答(8人, 1.0%) |

問4. 今回の検査はどのようにお知りになりましたか。(複数回答可)

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1. 名古屋市ホームページ(581人, 75.5%) | 2. 民間ホームページ(46人, 6.0%) |
| 3. 広報なごや(13人, 1.7%) | 4. 市役所・保健センターへの電話照会(46人, 6.0%) |
| 5. 友人・知人(39人, 5.1%) | |
| 6. インターネット広告(名古屋市ホームページへリンクしているもの)(46人, 6.0%) | |
| 7. 名古屋市地下鉄車両の広告(扉のステッカー等)(43人, 5.6%) | |
| 8. その他(21人, 2.7%) | 無回答(3人, 0.4%) |

問5. 今回、検査を受けられる理由をお教えてください。(複数回答可)

- | | |
|---|---------------|
| 1. ただ単に感染の有無を知りたいから | (575人, 74.7%) |
| 2. HIV／性感染症の情報にふれて感染が心配になったから | (159人, 20.6%) |
| 3. 体調に変化があり、HIV／性感染症の感染が心配になったから | (63人, 8.2%) |
| 4. 身近な人(パートナーなど)がHIV／性感染症に感染していることがわかったから | (9人, 1.2%) |
| 5. 定期的に検査を受けているから | (173人, 22.5%) |
| 6. 性感染症にかかったから | (29人, 3.8%) |
| 7. その他 | (19人, 2.5%) |
| 無回答 | (2人, 0.3%) |

問6. あなたにとって「感染が心配」だと考えられる出来事は、どの様なことでしたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 異性との性的接触(600人, 77.9%) | 2. 同性との性的接触(166人, 21.6%) |
| 3. 注射針の共用(11人, 1.4%) | 4. その他(25人, 3.2%) |
| | 無回答(11人, 1.4%) |

問7. 問6の出来事はどこで経験しましたか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 国内(726人, 94.3%) | 2. 国外(24人, 3.1%) |
| 3. わからない(17人, 2.2%) | 無回答(18人, 2.3%) |

問8. 「感染が心配」だと考えられる出来事から今日までに、どのくらいの期間がすぎましたか。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 2か月以内(167人, 21.7%) | 2. 2か月～3か月(183人, 23.8%) |
| 3. 3か月以上(401人, 52.1%) | 無回答(19人, 2.5%) |

問9. これまでに(今回の検査を除いて)HIV／性感染症検査を受けたことがありますか。

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. ない(275人, 35.7%)→ | (問11へ進む) |
| 2. ある(491人, 63.8%)→ | (問10へ進む) |
| 無回答(4人, 0.5%) | |

問 10. 問9で「2. ある」と答えられた方について、お尋ねします。【回答者：491 人】

10-1 この1年間に検査を受けましたか。

1. ない(142 人, 28.9%) 2. ある(335 人, 68.2%) 無回答(14 人, 2.9%)

10-2 この1年間に検査を受けた場所を教えてください。(複数回答可)【回答者：335 人】

1. 医療機関(109 人, 32.5%)
2. 名古屋市内の保健センター
 平日昼間(57 人, 17.0%) 平日夜間(13 人, 3.9%)
 土曜日(77 人, 23.0%) 日曜日(165 人, 49.3%)
3. 名古屋市以外の保健所(12 人, 3.6%)
4. 郵送検査キット(19 人, 5.7%)
5. 検査イベント (NLGR 検査会等) (32 人, 9.6%)
6. その他(6 人, 1.8%)
無回答(2 人, 0.6%)

10-3 この1年間に受けた検査項目を教えてください。(複数回答可)【回答者：335 人】

1. HIV(300 人, 89.6%) 2. 梅毒(282 人, 84.2%)
3. クラミジア(110 人, 32.8%) 4. 淋菌感染症(70 人, 20.9%)
5. B型肝炎ウイルス(66 人, 19.7%) 6. C型肝炎ウイルス(49 人, 14.6%)
7. その他(4 人, 1.2%) 無回答(4 人, 1.2%)

問 11. これまでに梅毒にかかったことはありますか。

1. ない(695 人, 90.3%) 2. ある(57 人, 7.4%) 無回答(18 人, 2.3%)

検査前の質問は以上です。ありがとうございました。

○附属機関の会議開催状況（令和５年度）

1 名古屋市感染症予防協議会

令和５年度は３回開催した。

第１回 令和５年８月８日

議題：会長の選出について、会長職務代理者の指名について、感染症発生動向調査について、感染症対策について、名古屋市感染症予防計画について 等

第２回 令和５年１１月２０日

議題：名古屋市感染症予防計画について

第３回 令和６年２月２０日から令和６年２月２９日まで（書面による審議期間）

議題：名古屋市感染症予防計画（最終案）について

2 名古屋市感染症診査協議会感染症部会

令和５年度は４回の定例開催を実施した。

(1) 令和５年４月２１日

新型コロナウイルス感染症の就業制限及び入院勧告等の事例あり。

(2) 令和５年７月２１日

腸管出血性大腸菌感染症の就業制限（３件）。

(3) 令和５年１０月２０日

腸管出血性大腸菌感染症の就業制限（５件）。

(4) 令和６年１月１９日

腸管出血性大腸菌感染症の就業制限（２件）。

3 関係条例等

(1) 名古屋市感染症予防協議会条例

(2) 名古屋市感染症診査協議会条例

(3) 名古屋市感染症診査協議会に置く感染症部会等に関する規則

(4) 名古屋市感染症予防協議会委員名簿

(5) 名古屋市感染症診査協議会感染症部会委員名簿

(1) 名古屋市感染症予防協議会条例

(設置)

第1条 感染症の予防に関する重要事項を調査審議するため、本市に市長の附属機関として、名古屋市感染症予防協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 協議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関する技術的又は専門的事項について調査審議し、その結果を市長に答申する。

- (1) 感染症の発生の予防及びまん延の防止のための施策に関すること。
- (2) 緊急時における感染症の発生の予防及びまん延の防止並びに医療の提供のための施策に関すること。

2 協議会は、前項各号に掲げる事項について、必要があると認めるときは、市長に意見を述べることができる。

(組織)

第3条 協議会は、委員30人以内をもって組織する。

- 2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、協議会に臨時委員を置くことができる。

(委員)

第4条 委員は、感染症の予防のための施策及び感染症の患者の医療に関し学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- 2 委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(臨時委員)

第5条 臨時委員は、感染症の予防のための施策若しくは感染症の患者の医療に関し学識経験のある者又は関係行政機関の職員のうちから、調査審議事項を明示して市長が委嘱し、又は任命する。

- 2 臨時委員は、当該事項に関する調査審議が終了したときに解嘱され、又は解任されるものとする。

(会長)

第6条 協議会に会長を置き、委員の互選によって定める。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、委員のうちから会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会は、その委員の過半数の者の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによ

る。

(部会)

第8条 協議会には、必要に応じ、委員（その調査審議事項に係る臨時委員を含む。以下同じ。）の一部をもって部会を置くことができる。

2 協議会は、前項の規定により部会を置いた場合においては、あらかじめ協議会の定めるところにより、当該部会の議決をもって協議会の議決とすることができる。

3 部会に属すべき委員は、会長が指名する。

4 部会に部会長を置き、会長が指名する。

5 部会長は、会務を総理し、部会の会議の議長となる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

1 この条例は、平成19年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に名古屋市結核予防協議会の委員である者は、この条例の施行の日、この条例による改正後の名古屋市感染症予防協議会条例第4条第1項の規定により、名古屋市感染症予防協議会の委員として委嘱され、又は任命されたものとみなす。この場合において、その委嘱され、又は任命されたものとみなされる者の任期は、平成21年3月31日までとする。

附 則（平成27年条例第18号）

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

(2) 名古屋市感染症診査協議会条例

(趣旨)

第1条 この条例は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第24条第6項の規定に基づき、名古屋市感染症診査協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員35人以内をもって組織する。

2 委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長)

第3条 協議会に会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長がこれを招集し、会長はその議長となる。

2 協議会は、その委員の過半数の者の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第5条 協議会は、議事について必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(部会)

第6条 協議会には、専門の事項を審議させるため、部会を置くことができる。

2 協議会は、前項の規定により部会を置いた場合においては、あらかじめ協議会の定めるところにより、当該部会の議決をもって協議会の議決とすることができる。

3 前2項に定めるもののほか、部会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成11年条例第31号）抄

(施行期日)

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成19年条例第4号）

1 この条例は、平成19年4月1日から施行する。

2 結核診査協議会条例（昭和26年名古屋市条例第44号）は、廃止する。

附 則（平成30年条例第29号）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(3) 名古屋市感染症診査協議会に置く感染症部会等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、名古屋市感染症診査協議会条例（平成11年名古屋市条例第15号。以下「条例」という。）第6条第3項の規定に基づき、名古屋市感染症診査協議会（以下「協議会」という。）に置く部会の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(部会の設置、名称及び所管区域)

第2条 条例第6条第1項の規定に基づき、協議会に、感染症部会及び4の結核部会（以下「部会」と総称する。）を置く。

2 結核部会の名称及び所管区域は、次の表のとおりとする。

名称	所管区域
第1結核部会	千種区、昭和区、瑞穂区及び名東区
第2結核部会	西区、中村区、熱田区及び中川区
第3結核部会	東区、北区、中区及び守山区
第4結核部会	港区、南区、緑区及び天白区

(所掌事務)

第3条 感染症部会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号。以下「法」という。）第24条第3項に掲げる事務のうち、結核以外の感染症に係る案件を取り扱う。

2 結核部会は、法第24条第3項に掲げる事務のうち、当該部会の所管区域内に居住地を有する結核患者に係る案件を取り扱う。

(組織)

第4条 部会は、委員6人をもって組織する。

2 部会に属すべき委員（以下「部会委員」という。）は、協議会の会長が指名する。

(部会長)

第5条 部会に部会長を置き、部会委員の互選によって定める。

2 部会長は、会務を総理し、部会を代表する。

3 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長の指名する部会委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 部会の会議（以下「会議」という。）は、部会長がこれを招集し、部会長はその議長となる。

2 部会は、その部会委員の半数の者の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席部会委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第7条 部会は、議事について必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 感染症部会の庶務は健康福祉局新型コロナウイルス感染症対策部感染症対策室において、第1結核部会の庶務は名古屋市千種区役所保健福祉センター保健予防課において、第2結核部会の庶務は名古屋市中村区役所保健福祉センター保健予防課において、第3結核部会の庶務は名古屋市中区役所保健福祉センター保健予防課において、第4結核部会の庶務は名古屋市南区役所保健福祉センター保健予防課において処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、部会の組織及び運営に関し必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成23年規則第19号）抄

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規則第45号）抄

1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（令和2年規則第128号）抄

1 この規則は、令和2年12月14日から施行する。

(4) 名古屋市感染症予防協議会委員名簿（令和6年3月31日時点）

任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

区 分	職 名	氏 名	備 考
学 識	大同病院 副院長	浅 井 雅 美	
〃	岐阜保健大学 副学長	石 井 英 子	
〃	名古屋大学 名誉教授	太 田 美智男	
〃	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 病院長	大 手 信 之	
〃	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 病院長	大 原 弘 隆	
〃	東名古屋病院 医療顧問	小 川 賢 二	
〃	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 新生児科部長	幸 脇 正 典	
〃	名古屋大学大学院医学系研究科 教授	柴 山 恵 吾	
〃	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 感染制御部長	富 田 ゆうか	
〃	名古屋市立大学病院 感染制御部長	中 村 敦	
〃	名古屋市立大学医学附属東部医療センター 小児科部長	服 部 文 子	
〃	名古屋掖済会病院 小児科部長	星 野 伸	
〃	名鉄病院 予防接種センター顧問	宮 津 光 伸	
〃	名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部長	八 木 哲 也	
〃	名古屋医療センター エイズ総合診療部長	横 幕 能 行	
〃	社会医療法人宏潤会 名誉理事長	吉 川 公 章	
団 体	名古屋市医師会 副会長	西 村 賢 二	
〃	名古屋市医師会 理事	竹 中 基 晃	
〃	名古屋市眼科医会 会長	鈴 木 聡	
〃	愛知県皮膚科医会 理事	福 井 良 昌	
行政機関	厚生労働省東海北陸厚生局長	中 山 鋼	
〃	名古屋検疫所長	大 森 豊 緑	
〃	愛知県保健医療局感染症対策局感染症対策課医療体制整備室長	兼 子 利 雄	
〃	愛知県衛生研究所長	小 栗 信	
臨時委員	名古屋市老人福祉施設協議会 副会長	加 古 瑞 紀	R5.10.2-
〃	名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会 会長	北 村 榮 章	R5.10.2-

(5) 名古屋市感染症診査協議会感染症部会委員名簿（令和6年3月31日時点）

任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

所 属	役 職 等	氏 名
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	感染制御部長	富田 ゆうか
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	呼吸器外科准教授	水野 幸太郎
名古屋市医師会	理事	竹中 基晃
名古屋学芸大学	看護学部長・教授	五十里 明
弁護士	—	長谷川 桂子
人権擁護委員	—	明石 雅世